

シノ處ヨリ間數ヲ起シタルヤ記載ナケレハ何レノ處ヨリ拾四町四
 拾九間ナリヤ知ルニ由ナキヲ以テ間數ノ異同ハ固ヨリ該帳ヲ煩ハ
 スニ足ラス又往古ハ測量等都テ鹿略ニシテ多クハ伸縮アルモノナ
 レハ今日ニ至リテハ元ヨリ間數ノ異同ヲ論スヘキニアラス而シテ
 差出シ帳ニハ東西南北道法トアリテ北ハ云々南ハ云々東ハ云々西
 ハ寺入村境トアルヲ見レハ市野村ヨリ寺入村へ通行ノ道ニヨリテ
 市野村地ヲ行キ盡ス所ハ寺入村ノ地タルノ明証ナリ況ンヤ之レニ
 添フタル地圖アリテ更ニ之ヲ証明スルヲヤ然ルヲ間數ノ符合セサ
 ルヲ以テ採用ナキハ不法ト云ハサルヲ得ス
 第六條 明和寛政ノ地圖及ヒ元祿度ノ圖
 判文第六條ニ原告無量村差出ス明和七年寛政五年ノ地圖ト元祿度
 代官所ニ差出セシ八拾箇村地圖ト境界符合スル上ハ十分ノ証左ニ

シテ云々トアレトモ明和寛政ノ地圖ハ無量村限ノモノニテ他ニ對
 シテ證據トナシ得ヘキモノニアラス又元祿度八拾箇村ヨリ差出セ
 シト云ヘル圖ハ年號モ記セサルニ之ヲ元祿度圖ト確認セラレシハ
 何ノ憑據アリテ然ルヤ其説明モナキハ不法ノ裁判ナリ況ンヤ八拾
 箇村ヲ一小紙ニ畫キタルモノナレハ甚々疎漏ニシテ圖キ場所ヲ角
 ニ畫キ三角ノ場所ヲ四角ニ畫キ甚シキハ全ク村落ノ所在ヲ轉換ス
 ルモノ少カラスシテ圖ヨリ地所ノ境界ヲ定ムルノ証憑トナスヘキ
 モノニアラサルヲヤ

第七條 羽前場古畑ノ形蹟ハ無之

判文第六條ニ羽前場ノ古畑ハ今ニ其形蹟ヲ存シ云々トアレトモ決
 シテ其形蹟ナシ但井戸窪山ノ間ニ原告村民等近山ヨリ刈取リタル
 萱ヲ置ク場所壹箇所アリテ聊平坦ナレトモ元ヨリ畑蹟ニアラサル

一ハ明瞭ナリ殊ニ唯壹枚ニ止マリ八拾貳筆ニ相當スヘキモノニア
ラス若シ古畑ナラハ其形蹟ハ檢地帳ニ密着符合シテ明瞭ニ有之筈
又所有者各自ニ之ヲ進退スル筈ナルニ此等ノ事一モ之レナキハ其
形蹟ニ非サルノ証ナリ又縱令古畑ハアリトスルモ被告ノ羽前場ハ
生畑ナレハ到底同場所ト云フヲ得サルヤ明カナリ然ルチ此等ノ事
一モ推糺ナク直チニ形蹟ヲ存シ云々トアルハ不法ナリ

第八條 境界ヲ定ムルハ差出シ帳ニヨルヘキト

前條々陳述スル通り被告ヨリ差出ス証據物ハ一モ確認スヘキモノ
ナク其檢地帳ハ假リニ之ヲ真正ノモノトスルモ固ヨリ境界ヲ定ム
ルノ証トスルニ足ラス依テ原被告ヨリ宮城上等裁判所ヘ差出シタ
ル証據書類ヲ見ルニ絶テ境界及ヒ場所ヲ定ムル証トスヘキモノナ
ク唯一ノ差出シ帳アルノミ然ルチ差出帳ニヨラスシテ檢地帳ニヨ

ラレタルハ不法ナリ

第九條

假リニ差出帳モ証トスルニ足ラサルモノトスルモ被告ノ証據物ニ
モ亦ヨルヘキモノナケレハ到底該論地羽前場ハ古來確定シタル境
界ナキモノナレハ之ヲ行政官ノ處分ニ歸セサルヘカラス然ルチ判
文第七條ニハ何ノ據ル所モナク新タニ境界ヲ裁定セラレタルハ全
ク裁判官ノ權限ヲ越ヘタルモノニシテ不法ナリ

被告 無量村總代高木勝伍外二人答辨ノ要領

第一條

宮城上等裁判所審理中原告ヨリ被告村ヘ檢地帳見受ケタキコト掛
合タル旨言テ左右ニ托シテ示サズ又同裁判所ヘモ平均帳ト引合セ
タキ旨ヲ申立タル旨採用ナク隱匿シテ之ヲ示サ、ルチ見レハ其不

正物タル言ヲ待タストハ曾テ事蹟無之如何トナレハ宮城上等裁判所ニ於テ原告總代タル森野知記馬場八百治ハ現ニ爲見置タリ其証佐ナルモノハ既ニ上告狀中ニモ被告證據物ハ何々ナリト論述アレハナリ是則被告ノ證書ヲ熟閱セシカ故ナリ被告ニ於テモ公平無我ノ裁廳ニ供シナカラ何ソ檢地帳ノ見セサルノ謂レナシ今尙ホ之ヲ更見スルモ正不正判然タル儀ニテ猥リニ原告ノ臆測ヲ以テ該帳簿ヲシテ不正物ト定稱スルノ理アラズ原告ハ檢地帳ヲ見サルヲ以該帳ニ官吏ノ奥印等ハ如何ナル成立ナルヤ知ラサレハ宮城上等裁判所ニ於テ審問中被告ノ代書ヲナシタル山口傳之丞ナル者ノ書面ニヨレハ該檢地帳ハ官吏ノ奥印ナカリシヲ控訴ノ節丸ニ森ノ字ノ印ヲ押捺シタル由ナリト申立ツレ共該檢地帳ノ奥印ハ被告ノ詐偽シタルモノナルノ趣ヲ以去ル明治九年十一月山口傳之丞ヲシテ証

人トナシ原告村ヨリ福島縣若松警察出張所へ告訴セシヨリ同所ニ於テ夫々吟味ノ末原告ノ申分相立タズ依テ該件ニ付被告ノ入費損害ハ原告ヨリ償却ヲ受ケタリ然ルヲ今又山口傳之丞ノ言語ニヨリ公正ノ帳簿ニアラスト云ハ、彼ノ警察所ノ處分ヲ遵奉セサル者ズ如シ况メヤ山口傳之丞ナル者ハ一朝被告ノ代書セシモ素ヨリ被告村ノ事情ヲ熟知スル者ト云フヘカラズ且傳之丞ハ被告代書ヲ謝絶シ方今原告ノ意見ヲ保スル者ナレハ假令傳之丞ニ於テ該帳ニ就テ証言ヲ吐露スルモ原因ナキ証言ナレハ之ヲ要スルニ足ラサルナリ加之該帳簿ハ初審詞訟ノ際被告最一ノ証憑ニ提供シ係リ官ニ於テ奥印ナルヲ見認シ居候義ニテ控訴ノ場合ニ於テ故ラニ押印シタルモノニアラサルハ明カナリ又被告無量村ヨリ明治四年三月申村吏ニ差出シタル受書中ニ明曆元未年ノ平均帳ヲ以テ數百年御

高上納云々トアリ又明治五年被告村地方取調定書ニ明曆ノ平均帳ニアタリ餘計ノ地ヲ所持致候者有之候ハ云々トアリテ被告村ニ於テモ地所進退ハ専ラ平均帳ニヨリタル者ニシテ檢地帳ハ用ヒサルヲ明瞭ナリ依テ檢地帳ハ不正ナリト申立ナシト土地ハ星霜ヲ經ルニ隨テ地位ノ瘦肥アリト雖モ當時領主ノ專政ヲ以テ村高ヲ減スルコトナラサルヨリ明曆元年檢地相改リタル節荒地高三拾六石四斗餘ノ竿打減少シタルモ當時現存ノ生地高へ割當テ総高貢納仕來タリ因テ平均帳ハ貢租取立方ニ便利ノ爲メ設ケシ者ニシテ檢地帳トハ地位等級ノ差アルモ其字名筆數反別并ニ所有主ノ差異毫モアリトナシ然ラハ檢地帳ハ何レノ村落ニ於テモ確乎不動ノ臺帳ニシテ闕ク可カラサルモノタルヲ喋々辨テ俟タスシテ明カナリ且被告村地内ニ原告村民ノ所有スル耕地有之ニ付原告村々吏立會押印モアリ豈不正物ト云フテ得ンヤ

第二條

原告羽前場トハ土地ノ字ノ如ク稱へ來リタレ共其實秣場ノ謂ヒニシテ土地ノ字ニ非スト雖モ羽前場ヲシテ秣場ノ謂ヒナリトハ抑苦言ノ甚シキト云フヘシ如何トナレハ秣場ノ名稱ナル者ハ耕作養育ノ芝草ヲ効ル所ナリ之レヲシテ無關係ノ羽前場ト謂フノ原由アル可カラス然ルチ原告伸述ノ如ク秣場ヲシテ羽前場ト稱呼スルニ於テハ譬ハ魚ヲシテ鳥ト指稱スル物ノ如シ豈如斯理由アル可ケンヤ加之上告狀第三條ニ被告無量村ノ羽前場舟窪ハ生地ナリ云々ト原告自ラ云ヘリ然ラハ羽前場トハ土地ノ字ニシテ秣場ノ謂ニアラサル明瞭ナリ然ルチ前顯ノ如ク羽前場トハ秣場ノ謂ヒナリト伸陳スレハ前後矛盾ノ申立ニシテ信據スルニ足ラサルナリ又烏帽子山三

面ハ皆羽前場ニシテ一面ハ原告寺入村分一面ハ被告無量村分一面
 ハ市野村分ナリ故ニ羽前場トシテハ境界ノ憑據ト爲スヲ得可
 ヲラサルヲ無量村檢地帳ニ羽前場ニ準受アルヲ境界ノ証憑トセラ
 レタルハ不法ナリト云ト雖モ原告ニ於テハ何等シ証左アツテ如斯
 稱スルヤ原告村分ハ寸地モ無之南ノ方一面ニ少シ市野村分アル
 モ二面ハ悉皆被告村分ナリ其境界ノ証左ハ元祿元年明和七年天明
 八年寛政五年享和二年文政元年等ノ各古畫圖上ニ於テ區域明瞭タ
 リ勿論該爭論地ハ素ヨリ被告村所轄地ナレバ原告ニ於テ其境界ヲ
 細知セサルハ當然ナリ又被告村所轄地タルコトハ明曆度ノ檢地帳並
 ニ同平均帳寶曆度ノ漆木書上帳安永文化安政等ノ山貢租取立帳ア
 リ如斯歷然シタル証ニ憑據シ境界ヲ定メラレタルハ決シテ齒牙ヲ
 容ル、處ニアラス原告猥リニ檢地帳ハ不正ナリ裁判ハ不法ナリト

伸陳スルヨリ寧ロ被告ノ確証ニ對スル証左ト裁判ノ主意ヲ消ス可
 キ効力ヲ有スル証憑ヲ提供スヘシ唯々無故ノ苦言ヲ主張シ境界ヲ
 紊亂シ遂ニ被告村ノ所轄地ヲシテ原告村ノ所轄地ト爲サント欲ス
 ルニ前顯確乎不動ノ証左アルヲ如何セン

第三條

原告曰シ被告無量村ノ羽前場舟窪ハ生地ナリ論所ハ秣場ナリ其字
 送りナルト一目シテ瞭然タリ然ルヲ被告帳簿ニ荒地トアラサル上
 ハ被告等内輪ノ記臆ニ止マリ決シテ他人ニ對シ証明シ難シト申立
 ツレモ原告ノ要主ハ該論所ノ外ニ羽前場舟窪ト稱スル生地ノ字ア
 ルヲ以テ該論所ハ羽前場舟窪ニアラスト云フニ過ギスト雖モ被告
 村ニ於テハ論所ノ外ニ羽前場舟窪ト稱スル場所寸毫モ無之且羽前
 場舟窪ハ往古ヨリ生地ナリシカ退々荒畑トナリタルモ舊領主專政

ノ頃其石高ヲ減少スルノナラサルヲ以テ其減高モ該時現在ノ生地石高ニ配附シ貢租義務ヲ負擔シタルカ故ニ享和二年ニ至リ第二十七號圖面ノ如ク舊畑地形反別並所有主ヲ記シ他日起返ノ節ハ復舊スルトニ義定シ一村共有地トナシタル儀ニシテ方今實地其形蹟分明シ決シテ字送りニアラサルナリ且第十五號慶應二年該地所有ノ爭論詞訟ノ濟口証文ニ(字下羽前場ト申所へ先年御竿入畑三反壹畝拾六步有之同上羽前場ニテ六畝六步同舟窪ニテ五反拾六步〆九反拾步連々荒畑ニ相成居此後無量長岡ニテ持畑開發致候共寺入神山ニテハ故障ノ筋無之筈ノ事ト記載有之上ハ被告村ノ所轄地ニシテ其字羽前場舟窪ノ荒地タルヲ昭々トシテ原告モ亦之レカ書証ニ押印シアルヲ以其事蹟ヲ知ラサルトハ云難タカルヘシ然ルニ被告内輪ノ記憶ニ止リ他人ニ對シテ証明シカクシトハ頗ル不當ノ仲述

ナリトス原告又曰ク假令荒地タリト雖モ各自所有者アレハ其所有主之ヲ進退スル筈ナルニ何レノ筆ハ何レノ地ニ當ルカモ指示シ能ハサルハ其字違ヒタルノ確証ナリトノ申立ハ前ニ述フル如ク第廿七號圖面ト實地ノ形跡ヲ比準スレハ何筆ハ何地ニ當ルヲ符合セリ既ニ宮城上等裁判所ノ審理中實地檢査ノ節比較相成字違ヒニアラサルヲ明瞭シタルヲ以テ今茲ニ喋々セス

第四條

原告曰ク判文第三條ニ内改帳ハ檢地帳ト異リ自村限リノ帳簿ニシテ官ノ檢査ヲ受ケタルモノニ非ストアレトモ元來寺入村ニハ古來檢地帳無之文化五年舊會津藩ノ命ニヨリ現在ノ土地ヲ証シタル節該帳ヲ製シ爾來檢地帳ニ代用セリトノ申立ハ内改帳ヲシテ檢地帳ニ代用シタル公正ノ帳ナル旨主張スト雖モ其内改帳ノ成立以前ノ

者ハ原告村限リノモノニシテ判文ノ如ク其領主ノ調査ヲ經タル者ニアラサレハ境界爭論ノ証憑トスルニ由ナシ況シヤ該帳簿ニ記ス所ノ地所ハ至ク論所外ニ涉リ本件山論ノ證據ト爲スヲ得サルチヤ原告ニ於テハ此帳簿ノ末ニ内勘定東尾岐村名主清吾ノ調印アリ内勘定トハ舊會津藩ノ官吏ナリ其東尾岐村名主トハ族籍ノ如ク記シタルモノナリ云々其真正ナルヲ証スヘシトノ申立ナレハ清吾ナル者ハ官吏ニアラスシテ唯々東尾岐村ノ名主ナリ同人當時算筆ニ熟練シタルチ以テ一時寺入村ニ雇ワレ寺入村地方チ内計算ヲ爲シタルモノニシテ即チ内勘定トハ原告村方内精算勘定ヲ清吾爲シタルトナシタル迄ニテ官吏ノ公認ヲ經タル帳簿ト云ハカラス原告又曰ク官ノ公認ヲ經サルモノトセハ官ニ於テ其税租徵收スルノ理ナキニ年々皆濟目錄ニモ該帳簿ノ租額ハ別段ニ之ヲ掲ケタルチ見レ

ハ公認ヲ經タルト云チ待タストノ申立ハ該帳簿ノ地所ハ見取畑ト唱ヘ各村適宜ノ場所ニ備置官ハ竿入等セス啻ニ何村ハ何程ノ見取税ヲ貢納スヘシト命シ徵收シタル舊藩ノ法故見取畑ハ官ノ調査スルモノニアラス假令官ノ公認ヲ經タル公正ノ帳簿トスルモ該帳簿ニ記載スル地所ハ論所外タルチ以テ到底本件山論ノ證據ト爲スヲ得ヘカラサルモノナリ

第五條

原告第四條ニ市野村戸長立會ノ土測量セシメ道法間數符合セサルチ以テ採用ナキハ不法ト云ハサルチ得スト申立ツレ何レノ所ヨリ拾四町四拾九間ナルチ知ルニ由ナシトハ頗ル漠然タル申述ナリ又往古ハ測量鹿略ニシテ伸縮アルモノナレハ今日間數ノ異同ヲ論ス可カラスト然ラハ則無論境界ノ證據ト爲スニ足ラス且ツ原

告ニ於テハ該差出帳ト圖面ニ東西南北ノ道法アリテ西ハ寺入村境
 トアルヲ見レハ市野村ヨリ寺入村へ通行ノ道ニヨリ市野村地ヲ行
 盡ス所ハ寺入村ノ地タルノ証ナリト云フト雖モ元來差出帳ナルモ
 ノハ奉行代官等ノ代ハル毎ニ其支配所村ニ巡廻ノ際各村方ヨリ其
 通行ノ本道ヲ書記差シ出シタルモノニシテ支道間道ヲ記載スルモ
 ノニアラス則チ被告第十六號市野村差出帳ノ如クナリ然ルチ原告
 証トスル市野村ノ差出帳ニハ南北ハ本道ヲ記シ東西ハ間道ヲ記シ
 タリ而シテ西間道ハ市野村ヨリ無量村地内ヲ經テ東尾岐村へノ間
 ニ止マリタル僅ニ通行スル山道ニシテ原告寺入村へ通行スル道路
 ニアラサルコトハ第二十九號明治九年原被立會ニテ取調タル繪圖面
 ニ判然タリ況ンヤ該差出帳タルヤ差出帳タルノ方法ヲ盡サス無謂
 間道又ハ形蹟ナキ道路ヲ記ス等其成立ノ曖昧タルモノニシテ之ニ

添フタル圖面モ市野村寺入村ノ間ニ製造セシ新圖タルヲ以テ決テ

眞正ノ証左ト見認カタキモノナリ

第六條

原告曰ク明和寛政ノ地圖及元祿度沙圖モ證據トナシ得可カラ
 スト申立ツルト雖モ假令明和寛政ノ地圖ハ自村限リノ地圖ト雖モ
 後年証書トセサレテ不得如何トナシハ明和度ノ地圖タルヤ戊辰ノ
 際火災ニ罹リ燒損アリ雖モ其存スル所ニ現然ト字羽前場トアリ
 高三石壹斗六升貳合ト記載アリ且又名主三名及七百姓惣代三名都
 合四名實印割印幸ヒニシテ燒殘ス加之無量村惣高反別等明瞭ニシ
 テ且他ノ舊記ニ比スルモ寸毫ノ差ナク適合スルニ於テハ是被告萬
 代不易ノ古証ト云ハスシテ何ソヤ他村ニ對スルモ自然証左トナル
 可キモノト信認セサルヲ不得勿論原告寺入村ニ於テハ言語ヲ左右

三辨シ強テ自村限リノ地圖杯ト主唱スレモ却テ原告寺入村ノ地圖
 ヨシ新製ノ物ニテ他ニ對シ証左ト爲ル可キ者ニアラス並ニ今般原
 告村ヨリ証左トシテ差出ス所ノ地圖其他ノ書類ハ被告ヨリ証左ト
 爲シテ提供シタル一切ノ書類ト比較セハ其權力如何ハ自ラ判然タ
 リ原告又曰ク元祿度八十箇村ヨリ差出セシト云ヘル圖ハ年號モ証
 セサルニ之ヲ元祿度ノ圖ト確認セラレシハ何ノ憑據アリテ然ルヤ
 其明証モナキハ不法ノ裁判ナリ云々申立ルト雖モ右八十箇村ノ地
 圖タル年號ナシト雖モ元祿度製造ノ地圖ト云フサルヲ得ス如何ト
 ナレハ右繪圖面持主舊永井組郷長白井宗十郎方ニ憑書有之ハ三組
 ノ者共確知ス其元祿元年右地圖製造ノ入費計算帳ハ宗十郎方ニ所
 藏有之處戊辰ノ兵亂ニ際シ紛失シタリ然レ共明和六年宗十郎祖先
 舊郷長勤役中留書帳中ニ記載アル明和六年代官所ヨリ右地圖下渡

シナリタル受書ノ控ニ元祿元辰年製造ノ繪圖タルト判然セリ該帳
 ハ百有餘年ヲ經過シタル古証ナレハ是憑証ト云ウスシテ何ソヤ假
 令憑証ト爲スヲ得サルモノトスルモ明和寛政ノ兩地圖ニ高反別字
 符合シ且明曆度ノ檢地帳ノ反別ニ相當シ加之實地ニ於ケルモ羽前
 場ノ古畑其形蹟現存シアルノ限リハ被告村所有地タル明瞭ニシテ
 原告村ヨリ之ニ對シ疑ヲ容ル可キ地質ニアラサルナリ

第七條

原告曰ク判文第六條中ニ羽前場古畑ハ今ニ其形蹟ヲ存シ云々トア
 レモ決シテ無之ト申立ツレトモ原告ニテ井戸窪ト稱スルハ論所外
 ノ場所ニシテ本件ニ毫モ關係ナシ抑モ論所ニ古畑ノ形蹟ヲ存在ス
 ルトハ曩キニ宮城上等裁判所ノ法官及ヒ地方官吏實地ニ派出シ并
 ニ原被告共々立會檢査ニ依テ顯然タリ豈ニ座上ノ空論ヲ待タシヤ

最モ古畑アリシ丁ハ檢地帳并ニ享和二年ノ繪圖面ニ於テモ元ノ地
形ト所有主アリテ其形跡實地ニ顯然タリ然ルチ形蹟ナキ杯トハ空
言ノ甚タシキナリ又羽前場ハ生地ニ非スシテ荒地タル丁ハ慶應二
年該地所ノ所有チ無量寺入ニテ爭論ノ節濟口証文ニ連々荒畑ニ相
成居此後無量村ニテ畑開發致候トモ寺入村ニテハ何等ノ故障ノ筋
無之ト明記アルチ以テ羽前場ハ生地ニシテ荒地ニアラストハ言ヘ
カラス

第八條

原告曰ク境界ヲ定ムルハ差出帳ニヨラスシテ檢地帳ニヨラレタル
ハ不法ナリト申立ツレトモ原告ニ於テハ本件爭論ノ証左トナレハ
キモノ一モ無之被告ニ於テハ公正ノ檢地帳及圖面其他公正ノ書類
アリテ該論場ハ被告所有地タルノ境界ヲ定ムルニ確乎タル憑據アリ

リト雖モ原告ノ差出帳ノ如キハ第五條ニ辨陳セシ如ク真正ノモノ
ト見認メ難キモノニシテ豈此差出帳ヲシテ境界ノ証憑トナスチ得
シヤ假リニ之レニ憑ルモ道法間數差異アリ西寺入境ト記シタルハ
何レチ指スヤ分明ナラス且其區畫ヲ知ルニ由ナシ旁以論所ノ境界
ヲ定ムル能ハサルナリ

第九條

原告曰ク判文第七條ニ何ノ據ル所モナク新々ニ境界ヲ裁定セラレ
タルハ全ク裁判官ノ權限ヲ越エタルモノニシテ不法ナリト申立ツ
レトモ該論所羽前場舟窪ノ沿域ヲシテ無境界トシ無証據ノ爭ヒナ
ルチ以テ行政上ノ處分ヲ仰ク可キ者ト云フニ過キスト雖モ被告ニ
於テハ確乎不動ノ檢地帳及地圖其他數多ノ確証アリ該地ニ付テノ
貢租ノ義務ハ往古ヨリ連綿盡シ來ル所有地ニシテ其區域境界瞭然

タリ然ルチ行政上ノ處分ヲ仰ク可キモトスルハ所謂不法ノ伸陳
ト云フヘシ宮城上等裁判所ニ於テ右ニ適應セル証書ニ憑テ境界ヲ
裁決セラレシハ公平無我ノ裁判ニシテ決シテ權限ヲ越エタル裁判
ニアラサルナリ

上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

第一 宮城上等裁判所ニ於テハ無量村証據トスル檢地帳ヲ寺入村

ニ視サズ無量村モ亦之ヲ隱匿セシトノ事 上告要旨 第一條

第二 無量村平均帳ニ寄帳ハ眞正ニシテ檢地帳ハ公正ノ者ニ非ス

トノ事 上告要旨 第一條

第三 羽前場トハ秣場ノ稱ニシテ壹箇所ニ止マラサルニ無量村檢

地帳ニ羽前場ニ竿受ノ地アリトテ論所ヲ無量村分ト判決セシハ
不法ノ裁判ナリトノ事 上告要旨 第二條

第四 判文ニ字隱シ字送りノ憑據ナシトアレトモ其憑據アリトノ

事 上告要旨 第三條

第五 判文ニ寺入村内改帳ハ官ノ檢査ヲ受ケタルモノニ非ストア

レトモ官吏ノ奥印アリテノ事 上告要旨 第四條

第六 寺入村証據トスル市野村差出帳ニ記載スル間數ニ拘泥セシ

トノ事 上告要旨 第五條

第七 無量村証據トスル明和七年寛政五年元祿ノ地圖ハ証據ト爲

スナ得ヘカラストノ事 上告要旨 第六條

第八 羽前場ニ古畑ノ形蹟ハ之ヲシテノ事 上告要旨 第七條

第九 經界ヲ定ムルノ証ヲキ上ハ行政官ノ處分ニ歸スルキチ其義

ナカリシハ權外ノ裁判ナリトノ事 上告要旨 第九條

辨明

第一條

宮城上等裁判所ニ於テハ原告ノ証據ヲ被告ニ視サス原告モ亦之ヲ
隱匿セシ旨申立ルニヨリ明治十一年三月五日ノ訟庭ニ於テ當時ノ
手續ヲ問糺スルニ曖昧ノ陳述ヲ爲シタル末遂ニ夫ノ檢地帳ヲ一見
シタルトモ奥印ハナカリシ旨申立タリ如此不實ノ上告ハ採用セス

第二條

上告人ハ山口傳之丞ノ書面ト第一明治四年三月被告無量村人民ヨリ
村吏へ差出シタル書面ニ明暦元未年ノ平均帳ヲ以數百年來御高上
納シアル廉ト第二明治五年無量村地方取調書ニ明暦ノ平均帳ニ當リ
餘計ノ地所持致候者有之候ハ右同斷トアル廉ト第三ヲ証トシテ檢
地帳ハ公正ノ者ニ非スト申立レトモ上告人ニ於テ宮城上等裁判所
審理中檢地帳ハ一見セサリシ旨申立又更ニ一見シタルトモ押印ハ

ナカリシ旨申立タリ果シテ已ニ一見セシナラハ押印ノ有無ト當時
點檢ヲ遂ケ若シ押印ナキニヨリ檢地帳ノ力ヲ有セスト思考セハ其
節直チニ辨論スヘキ筈ナルヲ其義ナク今日ニ至リ山口傳之丞ノ書
面ヲ以テ最初押印ナカリシヲ後日押印爲シタリトノ証ト爲スヲ得
サルモノトス又地所ノ進退ハ平均帳ニヨリ檢地帳ヲ用ヒサルヲ以
テ檢地帳ヲ公正ノ物ニ非スト申立レトモ其平均帳ナル者ハ即チ名
寄帳ト同物ニシテ名寄帳ハ本ト檢地帳ヨリ成リ立チシ者ナレハ名
寄帳ヲ以テ地所ヲ進退スルトテ檢地帳ノ不正タル証ト爲スヲ得
ス又角田八三郎ヨリ借受ケタル平均帳寫ト無量村所持スル本書ト
ヲ比較セシムルニ寫ノ方全備セサル旨申立タリ然ラハ則チソノ不
全備ナル寫本ヲ以テ之ヲ檢地帳ニ比較シ檢地帳ノ正不正ヲ論スル
ヲ得サルモノトス

第三條

羽前場トハ秣場ノ稱ニテ土地ノ字ニ非ストノ義ハ其證據ナシ却テ
 無量村檢地帳ニ字羽前場ノ名受畑數筆アリ寺入村ニ於テモ檢地帳
 ノ竿受畑ハ生畑ヲ熟田ナリト申立ル上ハ之ヲ秣場ノ稱ト爲スヲ得ス
 又宮城上等裁判所ハ實地見分ノ上論所ニ畑形アルト明和寛政及ヒ
 無量村カ元祿ト云ヘル地圖ノ實地ニ符合スルト寺入村證據ノ依ル
 ヘキナキトテ參酌シテ判決ニ及ヒタルモノニテ檢地帳而已ヲ以テ
 經界ヲ定メタルニ非ストス

第四條

無量村檢地帳ニ依レハ羽前場舟窪ノ竿受地ハ生畑ナルヘキニ論所
 ハ生畑ニ非スシテ秣場ナリトテ之ヲ以テ字隱シ字送りセシトノ証
 ト爲テ得ス如何ナレハ明曆元年ヨリ明治九年ニ至ル迄二百三十

餘年ノ間羽前場舟窪地ノ變セシトナキトノ証ヲ出サ、レハ其變セ
 シト有ルモ知ルヘカラサレハナリ

第五條

文化五年寺入村内改帳ノ末尾ニ内勘定東尾岐村名主清吾ト記スル
 モニアリ此内勘定トハ舊會津藩ノ官名ナル旨申立ルト雖モ其証ナ
 シ殊ニ名主清吾トアルニ依レハ藩廳ノ官吏ニ非スシテ村役人ナル
 ト判然ナリトス

第六條

上告人ハ原被外ナル市野村差出帳ヲ以テ一ノ證據ト爲スト雖モ惣
 テ差出帳ナルモノハ其村限り差出スモノニテ他村ニ對シ確証ト爲
 スヲ得サルモノトス故ニ宮城上等裁判所ニ於テ寺入村カ市野村ノ
 差出帳ニ依リ無量村ノ申立ニ抵抗ストモ其効力ヲ有セサル筋ナル

ナ其差出帳ノ事柄ニヨリ裁判ヲ與ヘタルハ不當ナリトスヤソトモ
其差出シ帳ノ事柄ニヨリ裁判ヲ與ヘタルトテ本件ノ裁判ノ當否ニ
關セサルヲ以テ破毀ノ限ニ非ストス

第七條

無量村証據トスル昭和七年寛政五年ノ地圖ハ自村限りノモノナリ
又元祿元年ト云ヘル地圖ハ元祿ノ年號ヲ記セサルカ故ニ果シテ元
祿度ノ地圖トハ確定セス依テ無量村カ此三箇ノ地圖ヲ以テ寺入村
ニ對シ証據ト爲スハ猶寺入村カ内改帳及ヒ他村ノ差出帳ニ於ケル
カ如シト雖モ宮城上等裁判所カ判決ノ旨趣ハ當ニ彼ノ三箇ノ圖而
已ニ由リ本案ノ裁判ヲ爲セシニ非ス第三條ニ辨明セシカ如ク無量
村明曆度ノ檢地帳ニ字羽前場ニ於テ數箇所ノ竿受畑アリテ現場仍
ホ畑形ノ存スルアリ寺入村ニ於テハ無量村ハ他所ノ字ヲ論所ニ移

セシモノナリト申立タレトモ其証ナク彼ノ三箇ノ地圖ハ全ク實地
ニ符合スルニヨリ之ヲ採用セシナリ如此場合ニ於テハ假令一村限
リ又ハ無年號ノ圖ト雖モ裁判官ノ思料ヲ以テ裁判ノ憑據ト爲スハ
固ヨリ妨ケナシトス

第八條

判文ニ畑形アリトハ八拾貳筆共現存ストノコトニ非ス殊ニ上告人モ
壹箇所ハ畑形ト見ルニキモノアリト申立ル上ハ畑形ナシト云ラハ
カラス又其檢地帳ハ本畑名受ニシテ實地ハ荒地ナルモ二百三十餘
年間ノ變地ナキヲ保ツヘカラサルハ第四條ニ辨明セシカ如クナリ
トス

第九條

原被雙方ニ証ナキ上ハ行政官ノ處分ニ歸セサルヘカラスト云ト雖

モ宮城上等裁判所ニ於テハ原被告共証據ヲ以テ相爭ヒタル未實地
檢査ニ及ヒ雙方ノ証據ニ付取ルヘキヲ取リ捨ツヘキヲ捨テタル上
証ニ依リシ判決ナルニ因リ經界ナキノ地ニ經界ヲ立テシ權外ノ裁
判ト爲スヲ得ス

判決

前條々ノ如ク宮城上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキ者トス

第五拾七號

○入會山地元爭論上告ノ判文明治九年十一月廿二日上告

原告

長野縣下信濃國小縣郡

長窪新町

東京府下第四大區五小

區湯島天神町三丁目三

番地寄留長野縣土族

正木

摺

右總代

長野縣下信濃國小縣郡

長窪新町平民

北澤幸七郎

被告

長野縣下信濃國小縣郡

長窪古町

長窪古町平民

須藤平八郎

右總代

長窪古町平民

伊藤東一郎

長窪古町平民

東京上等裁判所ノ審判

樋村伴三郎

原告 須藤平八外二名控訴ノ要領 明治九年八月十六日

自分共村方古町ノ儀ハ往古被告新町ト一郷ニシテ長窪ト稱シ論所
 大澤山秣場ハ官有地ニシテ長窪一村ノ秣場ニ之アリ寛永七年中該
 長窪村ヲ古町新町ト分割シ爾後寛文中迄ハ新町分ノ山税モ古町
 へ取立古町ヨリ上納致シ來レリ若シ新町山元ニ之アルナラハ此ノ
 如キ儀之ナキ筈ハ勿論且右秣場ハ新古兩町ノ共管ニテ山税モ兩町
 高割ヲ以テ相納メ右山ノ道路普請モ致シ入會秣蒔取來レリ既ニ元
 祿年中右大澤山秣場入會ノ儀ニ付信濃國佐久郡蘆田八箇村ト爭論
 相起リ新古兩町原告ニテ蘆田八箇村ヲ相手取リ出訴ノ節モ裁許裏
 書繪圖ヲ兩町へ下渡シ相成リタルハ元來兩町共管ノ秣場ナルヲ以

テナリ然ルニ今般地租改正ニ付山段別取調書上帳致ス可キニ際シ
 被告新町ニ於テ大澤山ハ新町ノ專管ナルカ故ニ新町ヲ山元ト稱ス
 へクシテ古町ハ唯入會ヲ許シタル迄ニ之アル旨申立シヨリ差違レ
 山段別取調書上帳出來難ク依テ兩町ヨリ本管長野縣廳へ代人差出
 シ論議ノ末明治七年十二月十八日兩町共管ノ熟談相調ヒタルニ付
 右山段別取調へ兩町連印上帳致スへキ處新町村吏ノ内印形不足ニ
 付左ノ第二號日延願書ヲ縣廳へ差出シタリ

第三號

當御管下第九大區六小區長窪古町同大區七小區長窪新町右兩町
 入會公有地大澤山ノ義今般地券御改ニ付新町ニテハ山本ト相認
 取調印致シ度旨申シ古町ニテハ安永度内濟証ノ通地所難御決ニ
 付兩町一休ニ調印致度旨申シ候ニ付雙方被召出確証御改被爲遊

候上嚴重兩町御理解被仰聞候ニ付奉恐縮山本若相除キ從前之
通兩町一體ニ調印致候儀示談行届候得共新町ニテ村吏印形不足
ニ付來二十日迄御日延御猶豫奉願上候以上

明治七年十二月十八日

大井傳八印

町用掛

善藏印

長窪新町代議人

田邊三郎次印

同家

丸山清平印

町用掛

城戸保家太印

長野縣參事檜崎寬直殿

猶雙方後日異議之ナキ爲メ右日延願書ノ寫シヲ連印ノ上雙方取替
セ置キタリ然ルニ被告違約シテ猶新町山元古町入會タル旨ヲ主張
シ更ニ長野縣廳へ訴訟シ審理ノ末前願蓋田八箇村ト訴訟ノ節下渡
シ相成タル裁許裏書繪圖面ハ新町ニテ預リ居リ且兩町共管大澤
山秣場へ新町ヨリ本品立出シヲ爲シタル儀之アルニ依リ右立出シ
ノ本品ハ切拂ヒ安永三年中古町ヨリ出訴ニ及ヒタル節扱人立入リ
熟談相成リ雙方ヨリ差出シタル左ノ濟口証文

第三號

差上申濟口証文之事

一信州小縣郡長窪新町之儀古高壹本壹郷ニテ秣場入會ニテ御座

候秣場之内字大澤山下申處元祿年中佐久郡蘆田八箇村ト出入罷
 成御檢使様御吟味之上御評定所ニテ兩長窪利運ニ被爲仰付御繪
 圖御裏書御十判ニテ頂戴仕罷在右新町山最寄ニ付御繪圖預ケ置
 候ハ蘆田八箇村之者共制道モ仕又ハ兩町立出シ等モ制道可致ト
 奉存相談之上御繪圖預ケ置候處却テ心儘ニ立出シ等仕秣場相狹
 申候先年ハ一日ニ馬壹疋ニテ草三駄宛刈申候所當時ハ漸貳駄宛
 刈候ハ共元年之壹駄半ニモ相成不申候右秣場ハ本村ヨリ道法壹
 里程枝郷ヨリハ壹里半程御座候處立出シ仕候ニ付枝郷ヨリハ片
 道貳里上下ニ四里近キ道法其上立出シ殘場ハ山之峯烈場ニテ朝
 飯前ニ草刈ニ參リ候馬無之御田地自然荒地同前ニ罷成難儀至極
 奉存候御事

一前書申上候通古高壹本壹郷ニテ相分候村方故道中御奉行様ヨ

リ高百石ニ付壹人壹匹役一日ニ人足拾貳人馬拾貳匹宛之宿役被
 爲仰付奉畏然所相談ノ上御通無之節ハ壹人壹匹モ不差出御通繁
 節ハ人馬有次第日々大人馬差出往還御用相勤申候中山道之儀九
 十月ヨリ正二月迄御通りモ無之三月ヨリ八月迄御通繁農業最
 中往還御用計ニ相掛リ耕作手入疎ニ罷成候其上秣場相狹殊外困
 究仕候宿場之儀ハ御大名様並ニ諸士様方御休泊又ハ旅人泊リ雜
 用茶屋ニテ鞆草鞋賣候テモ渡世ニ罷成古町之儀ハ宿場ヨリ本村
 ハ拾八町餘枝郷ハ壹里餘相隔宿役相勤連々ト百姓困究仕候宿役
 被爲仰付候迄ハ馬數貳百匹ニテヨビ有之候村方當時ハ人別帳ハ
 年々書上申候通六拾匹ニ不足馬數相成百姓モ遠國奉公又ハ日歷
 稼ニ罷出人馬相減宿役勤兼申候御事

一去九月御役所ヨリ被爲仰付候ハ前々御評定御奉行様御裁許狀

并繪圖御裏書所持イヌシ候村方ハ寫仕本紙相添差上候様被爲仰
 付奉畏然處右大澤繪圖新町之者共申候ハ何分寫取候儀成兼候由
 申候ニ付私共方へ請取寫差上可申由對談仕候得共私共方へ相渡
 不申然者兩村立會寫可仕由申候へ是又得心不仕剩私共ニ相談
 モ不仕無沙汰ニテ御役所へ持參仕差上々申候御上様ヨリ被爲仰
 付候御用ニサへ相渡不申私共入用之節見セ申儀モ不仕御繪圖隱
 置心儘ニ立出等仕秣場相狹候故古町困究仕御百姓相續成兼難儀
 至極仕候以御慈悲長窪新町之村役人被爲御召出御吟味ノ上秣場
 御繪圖之通立出シ等相潰御繪圖此末私共方へ預々置候様被爲仰
 付被下置候様奉願上候秣場先年之通被成下候ハ、御田地立歸御
 百姓行立宿役相勤御赦ト難有奉存候旨願上之候
 一同郡長窪新町答上候ハ右秣場兩村入會字大澤ト申所元祿年中

蘆田八箇村ト及出入候處御評定所ニテ御吟味ノ上同長窪利運ニ
 相成御繪圖御裏書御十判ニテ大澤山本長窪新町へ被下置難有其
 節ニテ頂戴所持仕罷在候然ル處最寄ニ付制道旁預々置候様申上
 候儀以之外僞申上候既其砌長窪古町入會秣場ハ大澤仙ノ倉ト前
 々ヨリ兩所ニ相限リ入會ニ御座候御繪圖寫仕内野持林等譯書仕
 相渡置候處右繪圖押隱御本繪圖預リ度段不堪至極奉存候
 一寛文中右大澤並仙ノ倉兩村秣場之義及爭論寛文四辰年長窪
 古町ヨリ訴狀差上翌巳年長窪新町ヨリ返答書差上甲府御評定所
 ニテ御吟味之上御裁許被仰付兩村入會秣場往古兩村相談ノ上大
 澤仙ノ倉兩山ト野山ニ相除々兩村秣場ニ相定雙方入會申候義相
 違無御座候勿論外山雙方入會申儀無御座候寛文中長窪古町ヨ
 リ差上候訴狀并ニ御裁許狀長窪古町御吟味被成下候ハ、明白ニ

相分可申奉存候勿論長窪古町ヨリ右兩窪山へ入會仕候ニ構候儀
 決テ無御座候事
 一長窪古町之儀分郷ニ示前々ヨリ宿役被仰付其後中山道一統御
 吟味之上古高壹本壹郷ニ相違無御座候高百石ニ付一日壹人壹匹
 役被仰付相勤來申候相對ヲ以入馬入用多ク節ハ右村有クテ人
 馬ハ呼來候儀相違無御座候村方ニ無之人馬觸當申候儀無之候
 一去九月御役所ヨリ被仰付前々御評定所御裁許狀并繪圖御裏書
 所持イタシ候村方ハ寫仕本紙相添差上候様ニ被爲仰付奉畏則長
 窪古町へモ及對談候處去已八月廿六日長窪古町與五左衛門勘助
 孫右衛門源十郎罷越候テ御繪圖拜見仕候上彼是六ヶ敷申御繪圖
 請取度趣ニ御座候故掛合候テハ手間取御用御差支ニ罷成候ニ付
 寫仕御本繪圖共持參御役所へ差上申候長窪古町御繪圖預リ度由

奉願候へ凡御裁許之節ヨリ山本新聞へ被下置所持仕來候へハ新

法ニ長窪古町へ預ケ候儀難仕奉存候

一長窪古町内野草山西山東山數箇所御座候處連々立出仕百姓持
 林ニイタシ置最寄之草場相潰削飯前之草刈場引失大澤山へ里數
 遠テ段御願申上候儀不埒至極奉存候先年右西山東山ニテ飯前
 草刈取申候處却難題申掛迷惑至極奉存候旨答上之候ハ
 一右出入雙方被召出御吟味御座候處先年蘆田込箇村兩村及出
 入御裁許之節御渡被遊候御繪圖面之儀ハ全牀兩町被下置候御繪
 圖ニ御座候間本紙ハ唯合迄之通山本新聞ヨリ示所持仕此度兩町役
 人立會上直町爲寫取勿論拜見仕度節其譯申達立會拜見可
 爲致旨先達示被御渡雙方承知奉畏候然恐處地所爲儀ハ難御決
 付場所御見分被仰渡奉畏候元來兩町之儀皆村同様ニ御座候處御

見分受萬一江戶表御差出等三可相成之難計左候云ハ因究之村方
 難儀仕殊三作毛刈正時節三候小前百姓甚迷惑仕候依之同郡和田
 村名主喜左衛門和守村名主庄右衛門犬門村名主市兵衛組頭金彌
 取扱候云秣場立出小申立候場所之儀字犬呂井小呂井貳箇所出生
 立候木品之分當時有形三所差置其餘草山之處ハ一畝兩町入會仕
 尤字本澤之方生立候木品之分大且云四分通相殘澤入六分通
 伐拂候積相極雙方得心仕自分萬端和融仕候至小右出入二付御願
 筋無御座候依之扱次雙方連印濟口証文差上申處如件出

與五左衛門印

年寄

安永三年九月

勘助印

與頭

九兵衛印

同

八左衛門印

同

庄右衛門印

同

傳十郎印

同

八郎兵衛印

同

同

同

同

同

同

同

同

竹垣庄藏様

音川補

御役所

同	八	段	兵	衛	門	印
同	伊	左	衛	門	印	
同	安	右	衛	門	印	
百姓代	源	十	郎	印		
同	友	右	衛	門	印	
同	吉	左	衛	門	印	
同	小	一	右	衛	門	印

音川補

同郡長窪新町

相手名主

同	平	右	衛	門	印
同	勘	右	衛	門	印
同	安	左	衛	門	印
年寄	彌	市	印		
同	右	仲	太	印	
同	同	同	同	同	同

同	所右衛門印
同	善右衛門印
同	八十
同	八印
與頭	武右衛門印
同	藤兵衛印
同	善右衛門印
同	百姓代
同	幸右衛門印

同郡和田村

同郡和田村 所右衛門印
 同郡和田村 善右衛門印
 同郡和田村 八十
 同郡和田村 八印
 同郡和田村 武右衛門印
 同郡和田村 藤兵衛印
 同郡和田村 善右衛門印
 同郡和田村 百姓代
 同郡和田村 幸右衛門印

同郡和田村 所右衛門印
 同郡和田村 善右衛門印
 同郡和田村 八十
 同郡和田村 八印
 同郡和田村 武右衛門印
 同郡和田村 藤兵衛印
 同郡和田村 善右衛門印
 同郡和田村 百姓代
 同郡和田村 幸右衛門印

口証文ニ山本新町ニ記載スル新町ニ論所大澤山ノ麓ニテ云々
 テ山本下記シ屬地迄ニテ山ノ地元云々以義ニ稱之ナリ且地所難
 決云々ノ文ハ爭論ノ地所ハ兩町何レノ管轄地タルヤ決シ難トノ
 意ナリ斯ク決シ難キノ地所ニシテ當時豈新町ヲ山ノ地元ト認ムル
 ノ理アラシヤ況ンヤ前顯ノ如ク出訴前原被共管ノ熟談ヲ遂ケタル
 上ハ之ヲ無効ニ歸スルノ道理ナカルヘキヲヤ是レ初審ノ裁判ニ服
 セスシテ控訴スル所以ナリ被告ニ於テ右共管ノ對談ヲ遂ケタルハ
 全ク前文日延願書ニ姓名ヲ記載セル大井傳八竹内善藏兩人以專斷
 ニテ新町一同ノ關スル所ニ之ナシ且大澤山ノ内新田并見附畑等新
 町人民ノ所有地アリテ即チ明和八年安永八年ノ新町檢地帳ニ歷々
 記載アレハ該論所ハ新町ノ專管タルト益以テ明白ナリ且申立右大
 井傳八竹内善藏ハ新町一同ヨリ委託シタル者ニ之アル旨初審ノ節

被告自ラ明言セリ故ニ右兩人ハ新町一同ニ代リ該件論辨ノ爲メ新
 町ヨリ縣廳ヘ差出シ置タル者ニシテ共管ノ約ヲ爲セシハ決シテ新
 町一同ノ關スル所ニ之ナシト云フ可カラス依テ右日延願書ハ原告
 共管ノ約ヲ爲セシ充分ノ証跡ニ之アリ又大澤山ノ内新町人民ノ所
 有地之アル儀ニ至テハ私有ノ耕地ト官有地内ニアル秣場トハ各性
 質ヲ異ニセリ然シテ論所秣場ハ官有地内ニシテ私有地ニ非サレハ
 私有地アリト云フヲ以テ該論所ハ新町ノ專管タル證據ニハ相立間
 敷全疎論所大澤山ハ官有地ニシテ原被兩町ニテ共管致シ來リタル
 ニ付今般山反別取調書ヲ縣廳ヘ上帳致スニ付テハ兩町ニテ反別取
 調兩町一同ノ名義ニテ上帳致シ度蓋シ右論山ノ儀ハ新町ノ地續ニ
 付其山地ノ番號ハ新町ノ番號ニ組込ムトハ素ヨリ異議無之又蘆田
 八箇村トノ訴訟裁許裏書ヲ新町ニテ預リ居タルハ新町ハ大澤山ノ

麓ニシテ蘆田八箇村ト接近ノ場所ニ付預ケ置キタル迄ニテ大澤山ノ地元ナルヲ以テ預ケタル儀ニハ之ナシ依テ右日延願書文面ト通共管ノ權利ヲ存シ兩町立會ニテ論所ノ反別取調兩町共管ノ名義ニテ上帳致シ度旨申立タリ

被告 北澤幸十郎外二名答辯ノ要領

論所公有地大澤山林場ノ義山税及ヒ入會ノ儀ハ原告申立ノ通り相違ナシト雖モ原告カ申ス處ノ寛文中迄ハ新町分ノ山税モ古町へ取立古町ヨリ上納シ來レリトノ如キハ相違ニシテ唯寛文二年ハ新町ノ分モ古町ヨリ取束テ上納セシ處翌寛文三年ヨリハ新町ノ分ハ新町ヨリ直ニ上納シ來レリ又新町ハ專管ニシテ山元タル証跡ハ乃チ安永三年ノ濟口証文ニ山本新町ト記載之アリ且元祿年中蘆田八箇村トノ爭訟裁許繪圖モ新町ニテ預リ居レリ是レ新町ハ論所ノ專

管ニシテ山元ト稱スヘキ充分ノ憑據ナリ殊ニ右大澤山ノ内新田並見附畑等新町人民ノ所有地之アリ則チ明和八年安永八年ノ新町檢地帳ニ歷々記載アレハ該論所ハ新町ノ專管タルコト益以テ明白ナリ全体論所大澤山ノ儀ハ官有地故今般雙方山ノ地元ト云ヒテ相爭フ地元トハ古來該山ヲ官ヨリ預リ來リタリト云フ儀ニテ地元トハ則チ預リ主ノ義ナリ右ハ巳ニ安永三年ノ濟口証文ニ山本新町トアルニ依レハ古ヨリ新町ニテ預リ來リタル義ナリ然レハ其山ノ世話方即チ山反別取調又ハ其山ノ番號ヲ新町ノ番號ニ組込ニ或ハ野火ノ消防山ノ神ノ祭禮等新町ニテイダシ度故ナリ然ルニ原告ニ於テ右濟口証文ニ山本新町トアルハ山ノ麓ト云フ義ニ之アル旨該証文中地所難決云々ノ文言ヲ引証シテ申立レ居前後ノ文意ニ就テ之ヲ考フレハ決シテ山ノ麓ト云フノ義ニ之ナク其節ノ訴訟タルヤ論所

大澤山ノ内ニ新町人民ノ持林之アリ其持林ヨリ新町古町ノ入會秣場へ木品ヲ立出シタルノ争訟ナレハ地所難決トハ右木品ヲ果シテ立テ出シタルヤ否ヤハ難決ト云フノ義ニシテ原告ノ申立ル大澤山ハ新町古町何レノ管理ナルカ難決ト云フノ義ニハ之ナシ故ニ地所難決トアルヲ以テ山本新町トハ山ノ麓ノ新町ト云フ證據ニハ相立間敷且原告ニテ一旦古町新町共管ノ約ヲナシタル証トシテ差出ス日延願書ノ義ハ雙方取替セ及ヒ縣廳へ差出シタルハ相違ナシト雖モ右ハ只日延書ノ儀ニテ是レヲ以テ証トスル謂レ之ナシ且其砌雙方爭論決シカクキヨリ山反別取調書上帳出來カクシ縣廳ヨリハ度々督促ヲ受ケタルニ付爭ノ理由ヲ論辨シ且上帳日延願旁代議人大井傳八町用掛竹内善藏ヲ縣廳へ差出シ置タル所傳八善藏等ノ兩人ハ一町ノ代人ニ非スシテ專斷ヲ以テ兩町共管ノ熟談ヲ爲シ結約ニ

及ヒタルモノナレハ其約定ノ効ナキモノニ付被告ニ於テハ初審裁判ヲ遵奉セント欲スル旨ヲ答辨セリ

判文

第一條

被告ニ於テ明治七年十二月十八日論所大澤山兩町共管ノ熟談ヲ爲シ以テ証書ヲ交換シタルハ全ク大井傳八竹内善藏ノ專斷ニ成リタルモノ故無効ノ約定ニ有之旨申立ルト雖モ大井傳八竹内善藏ハ其爭ノ理由辨論ノタメ町方ヨリ本縣廳へ差出シ置タル者ナレハ縣廳へ對シ理由ヲ陳へ原告ニ向ヒ論辨シ以論所共管ノ結約ヲ爲スニ新町一同へ沙汰セサルトテ原告古町ニ對シ結約ヲ無効ト爲ス申分ハ不相立事

第二條

被告ニ於テ大澤山ノ内新田見附畑等新町人民ノ所有地有レハ論所
ハ新町ノ專管ナルト益以明白ナル旨申立ルト雖モ論所ハ官有地内
ニアル秣場ニシテ私有地内ニ非サレハ等シク大澤山内ノ地所タリ
トモ徒ラニ私有地アリト云テ以官有地モ亦專管ナリト可証明理由
ナケレハ右申分不相立事

第三條

安永三年濟口証文ニ地所ノ義難決トアルハ原告ノ陳述ニ論所大澤
山ハ原被ノ内管理者難決ト云フ義ナリ又山本新町トアルハ山ノ麓
ト云フトニテ山ノ地元ト云フ義ニハ無之ト被告ニ於テハ地所ノ義
難決トハ該時訴訟ノ目的タル大澤山秣場ノ地所ニ本品ヲ立出シタ
ルヤ否ハ難決トノ義ナリ山本新町トハ山ノ地元ト云フ義ナル旨申
立原被相争ト雖モ地所ノ義難決トハ地所ニ係ル爭論ハ實地ニ就テ

調査セサレハ裁決シ難シト云フ義ト相聞ヘ其証タルヤ難決ノ文言
ヲ承ケ場所御見分仰渡サレ云々ノ文字アリ又山本新町トアルハ山
ノ地元タルヲ以テ唱フルト山ノ麓ヲ指ストノ爭論ハ只字面ニ就テ
申争迄ニシテ他ニ傍証ス可キモノナシ去レテ原被兩町入會秣刈取
來リ且山税モ兩町高割ヲ以納メ來リシ趣ハ原被ノ陳述符合スルヲ
以乃チ古來ヨリ兩町共管ナル痕迹ヲ徴スルニ足レリトス且又第一
條ニ判述スル明治七年十二月十八日附熟談日延書ニ從前ノ通兩町
一体云々ノ文字ヲ記セルハ論所々轄上ニ於テ兩町ノ權力等差ナキ
ヲ看トム可シ依テ論所大澤山秣場ハ原被兩町共管ト相心得兩町立
會ノ上反別取調上帳可致事 明治九年十
月十七日

大審院ニ於テ

原告 正本標外壹名上告ノ要領

第一條

東京上等裁判所判文第一條ニ明治七年十二月十八日我新町々用掛竹内善藏代議人大井傳八ヨリ古町村吏連印ヲ以テ縣廳へ差出タル日延書ハ効アル旨ノ裁判ナレトモ該書面末文ニ新町村吏印形不足ニ付來ル二十日迄御日延云々ト記載セシモノハ該兩人ハ鬪村ノ總代トナリスル示談ナシ得ルノ權ナキニ因ル則古町ニ於テモ其總代ノ權ナキヲ承認シテ之レニ連印セリ蓋シ竹内善藏等カ出縣セシ際ノ事情ハ方今我新町ハ五部ニ分チ戸長ノ次ニ用掛二人アリテ竹内善藏ハ第一第二第五ノ部ヲ所轄シ北澤幸十郎ハ第三第四部ヲ所轄シ又代議人ハ各部ニ一人ツ、ニシテ便チ大井傳八ハ第二部ノ代議人ナリシカ當時未タ訴訟ニ至ラス縣廳ヨリ地券取調上帳ヲ促サル、ノ呼出狀アルニ依リ村吏相協議シテ第一第二第五部ヨリ竹内

善藏大井傳八第三第四部ヨリ北澤幸十郎等ノ代理トシテ丸山多平次ヲ出縣セシメタリ而シテ該三名ニ委托スルハ上帳ノナラサル所以ノモノハ古町ノ非理ナルニ據リ其理由ヲ上陳セシムルニ過スシテ其結局ヲナスノ權ヲ有セシメタルニアラサルカ故ニ小前一同ヘモ協議セズ委任狀モ附與セサリシナリ然ルチ地理課官員寺田國道ヨリ兩町一体ニシテ上帳スヘキ嚴諭ヲ蒙リ不服ナルヲ以テ丸山多平次村方協議ノ爲メ歸村スル其不在中竹内善藏大井傳八兩人ノ專斷ヲ以テ示談行届キタリトセリ然レトモ鬪村ノ總代ナラサルニ注意シテ新町村吏印形不足ニ付云々ト掲載シテ總代ノ全權ヲキナスセリ若シ該兩人ノ全權アラハ宜シク其局ヲ結ヒ上帳連印ヲモナスヘキナリ是レ古町モ該兩人ニ總代ノ全權ヲキチ自認シタルモノナリ而シテ來ル二十日迄ト云ツテ未タ其局ヲ結ハサルノ前該請書ノ

宛ナル長野縣ヨリ取消ヲ命セラレタルモノニシテ其証第八號ノ如ク長野縣地理課ヨリ聽訟課へ出訴スヘキノ達アリ然ラハ該請書タルヤ已成シモノニアラス其無効ハ勿論ナルヲ以テ長野縣裁判所モ之ヲ無効ニ歸セラレタリ然ルチ東京上等裁判所ハ右請書末文ノ理由更ニ審問ナク大井傳八竹内善藏ハ園村ニ代リ該件ノ結局ナラス權アリト裁判サレタルハ不法ノ裁判ト思考ス

第二條

安永三年濟口証文ニ山本トアルチ原告ハ山麓ト解シ被告ハ山元ト云ヒ又同文中地所ノ義難決トアルチ原告ハ地元難決ト云ヒ被告ハ林木立出ノ地果シテ入會ノ地ナルヤ難決ト相争フモ共ニ傍証スヘキモノナシ云々トアレト我新町ノ云フ山元ニハ之ヲ傍証スルモノアリ便チ第一號畫圖而是レナリ其畫圖面タル判然同村ノ境界ヲ

引シテ該論山ハ全我新町ノ區畫内ナリ若シ彼レカ云フ如ク共管地ナルモノアラハ又一部ノ區畫ヲナシ共管地ヲ示サ、ルチ得サルモノナリ然ルチ全ク我新町ノ區畫ニ入レタルチ以テ山元即チ所轄ハ我新町ナルチ知ルニ足レリ右畫圖及現時原被告村ノ調製シテ管轄廳ニ呈スル各自畫圖ノ如キ兩村ノ境界ハ判然タリ蓋シ互ノ境内ニ飛地アリテ古町ノ飛地ノ租稅ハ古町ニテ納メ新町ノ古町境内ニアル飛地ノ租稅モ亦新町ニテ之ヲ納メ來リテ我境内ニ彼ノ所轄地ノ點在スルモ是レハ之レ純然タル彼レノ所轄地ニシテ爲メニ共管地アルヘシト推測スルチ得サルモノトス而シテ該飛地ナルモノモ明治十年内務省乙第百四號布達ニ據リ我所轄内ニアル彼ノ飛地ハ我所轄ニ歸シ彼ノ所轄内ニアル我飛地モ彼ノ所轄ニ歸スルモノナリ然ルニ該論地タル東京上等裁判所裁判ノ如ク共管トシ之ヲ執行セ

ハ該論山ノ一地我長久保新町ニ地籍ニモ編入シ又被告長窪古町ノ
 地籍ニモ編入シ其番號ヲ附スルニ長窪新町ハ何號長窪古町ノ何號
 トシ一地ニ對シ二箇ノ番號アルニ種無類ノ地ヲ現出スル義ナリ且
 原告ハ新町ト云ヒ被告ハ古町ト云フヲ以テ或ハ被告ヨリ分村シタ
 ルモノハ如キモ其實然ラス古來傳フル處寬永度洪水ノ際新町現今
 ノ地ヲトシ長久保新町驛ヲ置キ新町ト云ヒ古町ハ同時ニ現今ノ
 地ニ移リ却テ枝郷タリ其証書別紙第三號第四號ノ如ク枝郷タルト
 テ被告村ニテ自認セリ
 又地所ノ義難決云々ハ當時該爭論ノ原因ハ我新町ニ入會山ノ私
 ニ林木ヲ立出シタリト云フニ起リタルモノナリ故ニ其文義タル林木
 ナ立ルノ地果シテ入會ノ地タルヤ否ハ吏員ノ檢分ツ上ナラザハ決
 シ難シ其檢分ヲ請ハントスレハ其入費ニ困ミ又農時ニ害アルヲ以

テ隣村某々ヲシテ立入ラセ甲ノ地ハ立ル所ノ林木ヲ伐拂ハセ乙ノ
 地ハ舊ニ據テ熟議セシムルノ意ナリ然ラサレハ豈當時曾テ爭ハサ
 ル地元ノ如何ヲ掲載スルニ理アラシヤ然ラハ傍証ナキモ被告村云
 ヲ處ノ地元難決ノ義ハアラズシテ我新町云フ處ノ入會地タルヤ
 否難決ノ義ナラシト信ス
 又山稅ヲ兩町高割ニ納メ且又第一條ニ陳述スル日延書中兩村一體
 ノ文字ヲ記セルハ所轄上權力差異ナシトシ共管ト心得ルキ旨ノ判
 決ナレトモ古來地元ト入會ノ區別ハアリナカラ山稅ハ高割等ヲ以
 テ各自ニ之ヲ納ムルノ習慣アレハ山稅ヲ兩村高割ニ納ムト云フヲ
 概シテ共管ノ証トシ難シ又日延書中ニ一體ノ文字アレハ該書ハ
 既ニ第一條ニ陳述スル如ク無効ノモノナラシ然ルニ共管ノ跡ヲ徵
 スルニ足レリトノ判決ハ不法ト思考ス

又原被兩町共管ト相得心云々トアレトモ條理ヲ推究スルニ元來共
 管ト稱スル地盤ナキヲ信ス何レトナレハ地籍編纂ノ舉一村限リニ
 調査アルモノナルニ若シ甲乙村共管ノ地盤タラハ之ヲ甲村ニ編入
 センカ將タ乙村ニ編入センカ又若シ其共管地ニ人民ノ住居セハ其
 人民ハ甲村ノ人タルカ將タ乙村ノ人タルカ之ヲ定ムル由ナキ不
 都合ヲ生スルニアラスヤ然ルニ被告ハ明治五年大藏省第二百十六
 號地券渡方規則増達第三十五條ニ據リ共管地ナルモノアレハキヲ
 云フモ被告ハ共有ト共管トヲ混同シ該答辨ヲナセリトス如何トナ
 レハ該布達タルヤ兩村以上數村入會即共有スルモノハ地券証渡方
 其地券ヲ所持スルン方法ト示サレタル迄行テ譬ハ甲村ノ
 所轄内ナル或山野へ乙村ノ入會シテ所有ノ權甲乙村ニアラバ該布
 達ニ據リ甲乙兩村ヲ掲載シタル地券証ヲ渡サレ年番ヲ以テ之ヲ所

持ス可キノミ然レトモ其地盤ハ依然甲地ノ所轄ニシテ乙村ノ所轄
 ニアラス則該布達タルヤ其地盤所轄如何ニ關スルモノニアラザレ
 ハナリ而シテ明治十年六月十六日呈供シタル明治九年九月十二日
 長野縣伺内務省指令ニ據ルモ共管地ナキヲ看ルニ足ル然ルヲ終決
 ノ裁判ハ地盤ニ對シ用ユルヲ不得共管ノ名稱ヲ下サレシ裁判ハ不
 法ノ裁判ナリト思考ス
 被告 須藤平八外二名答辨ノ要領
 原告ニ於テ明治七年十二月十八日長久保新町代議人大井傳八町用
 掛竹内善藏カ取結ヒタル示談書ハ其効ナキモノト申立ツルト雖モ
 既ニ原告カ縣廳ヨリ地券取調上帳ヲ促カサル、ニ由リ古町ノ爲メ
 ニ上帳ヲナシ能ハサル旨ヲ上申セシメシガ爲メニ餘ノ村吏ト共ニ
 出縣セシメタリト明言スルヲ見レハ我古町ニ對シ辨論討議スルノ

責任含蓄セルヤ明カナリ況ンヤ該示談書ハ長野縣廳ノ説論ニ服シ御受ケノ爲メ呈供シタルニ於テカヤ若シ之ヲシテ原告新町ノ權利ヲ保ツ契約トスレバ原告ハ果シテ大井傳八外一名へ全權ヲ與ヘタルモノト主張スルハ論ヲ俟タサルヘシ今原告ニ於テ山本新町ノ四字ヲ活動セシメシガ爲メ該契約ヲ無効トスレモ固ヨリ原告ノ專管ニハ之ナキヲ以テ大澤山ハ共管ト可心得縣廳ノ説論ニ基キ示談行届キタルナレハ該契約ハ無効ナラサル者ト相心得居レリ

第二條

原告ニ於テ安永三年ノ濟口証文ニ山本新町下記載タルヲ以テ山ノ地元ト附會スレモ已ニ別紙第二號元祿度ノ裁許圖面ノ裏書ニモ長窪古町新町山論ニ付ト之アリ又安永度ノ濟口証文ニモ御繪圖ノ儀ハ全林兩町一同ニテ及出入兩町へ被下置候御繪圖面ニ御座候云々

且兩町一体ニ入會ニ仕等ノ明記アレハ特リ山本新町ト明記アルヲ以テ山ノ地元ト申立ルハ不適當ナルヘシ山本ノ稱呼ハ山ノ麓ニ住スル新町トノ意ニテ書キタルモノナリ若シ原告新町ノ云々所ノ如クナレハ山元ト書クヘキナリ元來兩町一体ナルカ故ニ該山ニ就テ本末ノ區別アルヘカラサルハ勿論ナリ且今般原告ヨリ呈供セシ第一號ノ繪圖面ハ實際ニ相適セス何トナレバ往昔兩町一体ノ部落ナリシカ寛永度古町新町ト分離スルノ時其古町ヨリ新町ニ引分ルノ人民各從前ノ所持地屋敷等其儘其人ニ就テ分離セシユヘ現今古町ノ宅地内ニ新町ノ分アリテ其地稅ヲ新町ヘ差出シ居ルモノ之ナリ謂ユル兩町所管ノ地所碁布シテ該繪圖面ノ如キ一直線ヲ以テ古町ノ境界ヲ判然スルヲ得サルナリ而シテ地所難決ノ義東京上等裁判所カ地所ノ儀難決トハ地所ニ係ル爭論ハ實地ニ就テ調査セサレハ

裁決シ難シト云フ義ト相聞ヘ其証タルヤ難決ノ文言ヲ承ケ場所御見分仰渡サレ云々ノ文字アリト裁判セラレタルハ穩當ナルモノト承認ス何トナレハ地所ノ儀難決トアリテ大澤山ノ全地ヲ指稱シタルノ明証ナシ又樹テ出シノ地ト限リタル明文ナシ其明証ナキテ強テ争ハンヨリ寧ロ地所ニ關係スル争論ナルニ由リ實地ニ就テ調査シ上裁決スルト解セラレタル裁判ハ公明ノ裁判ナリト信ス又原告ニ於テ固ヨリ權力ノ差異ヲ論スルニ非スト申立ルハ何ノ理ソヤ元來原告ハ專管地ト云ヒ被告ハ共管地ト云ヒ原被互ニ其權力ヲ争フヲ以テ法衙ハ之ヲ法理ニ照シ其是非曲直ヲ裁判アリシニ非スヤ又原告ニ於テ共ニ山税ヲ納ムト云フモ共管ノ証トスルヲ得シト申立レ凡被告ニ於テ共管ノ証トスル所ハ別紙第一號ノ如ク往昔ハ原告ヨリ山税ヲ受取り新古兩町ノ分一括シテ納メ來ル處其後兩町互ニ

山税ヲ石高ニ分賦シ原被兩町ヨリ之ヲ納メ其入會タルヤ互ニ之ヲ今日ニ履行シ來レハ別紙第五號明治七年二月四日大藏省地券渡方増達ノ如ク共管地ノ券狀ハ原被互ニ二年番ヲ定メテ之ヲ監守シ而シテ該地ハ原被互ニ入會共管保護スヘキ者ト心得居レリ

原告被告合同陳述 明治十一年三月十四日

本訴ノ根元ハ明治六年七月附太政官第二百七十二號布告ニヨリ本縣地券掛リニ於テ明治七年一月（日不記）比口達ヲ以テ該村公有地ノ山反別取調書上致スヘシト但シ此特別ニ山本又ハ入會等ノ書式差圖ハアラサリシ然ルニ原告新町ニ其取調書上帳ニ山本新町入會古町ト認メ差出スヘシト發言セシヨリ葛藤ヲ生シ終ニ今日ニ到レリ

上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

一 第二號ノ日延書中ニ大澤山共管ノ示談云々トアルハ新町代人

井傳八竹内善藏等カ當時委任外ノ所爲ニシテ其約ノ効ナキトシ
該書ノ末項ニ新町ニテ村吏印形不足ニ付云々トアルニテ徵スヘ
ト事

ニ安永三年九月濟口証文ニ山本新町トアルヲ証トシ申立シテ只字
面ニ就テ申争迄ニテ他ニ傍証スルニキナシトテ判決ナシト第一號
繪圖面ニ傍証トナスニ足レリトノ事

三安永三年濟口証文ニ地所難決トシ樹テ出シテ地果シテ入會リ地
ヘ新町ヨリ立出シタリヤ否ヤハ檢分ノ上ナラテハ難決トノ意ナ
リトノ事

辨明

第一條

上告要旨第一條ニ東京上等裁判所ノ判文第一條ヲ指摘シ第二號日

延書即明治七年十二月十八日大井傳八竹内善藏ノ兩人カ差出シタ
ル日延書ハ効アル旨ノ裁判ナレモ古町ノ爲メニ上帳ヲナシ能ハサ
ルチ上申セシムル爲メ餘ノ村吏ト共ニ出縣セシメタルモノニテ古
町ヘ對シ結局ヲ爲スノ全權ヲ與ヘシニ非サルコトハ其請書ノ末項ニ
新町村吏印形不足ニ付云々ト掲載セシテ以テモ亦其全權ヲ示
セシトハ明ラカニ知ルニ足ラン云々ト申立タリ依テ右第二號日延
書ヲ閱スルニ其末文山本ヲ相除キ從前ノ通兩町一体ニ調印候様示
談行届候得共新町ニテ村吏印形不足ニ付來ルニ二十日迄日延御猶豫
奉願云々トアリ凡ソ人ノ委任ヲ受ケ事ニ從フヤ全部ノ委任ト一部
ノ委任トノ差別有トス今此文面ヲ案スルニ竹内善藏大井傳八等
兩人ニ於テ共管ヲ示談ヲナセシハ相違ナシト雖モ其結文ニ新町ニ
テ村吏印形不足ニ付云々トアルニ依シテ此兩人ハ新町ヲ爲メニ便

宜處分シ得ヘキ全部ノ委任者ニ非スシテ其争ノ理由ヲ辨論シ上帳
ノ遅延スル猶豫ヲ願フヘキ部分ノ委任者タルト明瞭ナリトス然ル
ニ東京上等裁判所ハ此間人カ縣廳ヘ對シ理由ヲ陳ヘ原告ニ向テ論
辨シトアル口供ノ語ヲ執テ以テ直ニ全部ノ委任者ト認メ該争論ノ
結局ヲ爲スハ元ヨリ兩人ノ權内ニアリ其權内ヲ以テ論所共管ノ約
ヲ爲セシハ無効ノモノニ非スト裁判セシハ不條理ノ裁判ナリトス

第二條

上告要旨第二條ニ東京上等裁判所ノ判文第三條中安永三年濟口証
文ニ山本新町トアルハ山ノ地元タルヲ以テ唱フルト山ノ麓ヲ指ス
トノ争論ハ只字面ニ就テノ申争ヒ迄ニシテ他ニ傍証不可キナシ云
々トアレモ我新町カ云フ所ノ山本ニハ傍証スヘキアリ便チ第一號
繪圖面是ナリ此圖面タル判然兩村ノ境界ヲ墨引シテ該論山ハ我新

町ノ區畫内タリ云々申立タリ因テ該繪圖面ヲ閱スルニ古町ト新町
ノ境界線ヲ畫シ以テ其區域ヲ分テリ而シテ大澤山内原被入會地ト
其否ヲサル地トノ部分ハ界線ヲ畫セス又古町カ論山大澤山ノ義ハ
新町ノ地續ニ付其番號ハ新町ノ番號ニ組込ムトハ違義ナシト東京
上等裁判所ニ於テ明言セシニ依レハ古町ノ部内ニ非スシテ新町ノ
部内ニ在ルト明瞭ナリトス然ラハ則安永三年九月濟口証文ニ山本
新町トアルハ其地所新町ニ属スルヲ以テノ稱ナルト明カナリトス
然ルヲ東京上等裁判所ニ於テ山本新町トアルハ山ノ地元タルヲ以
テ唱フルト山ノ麓ヲ指ストノ争論ハ只字面ニ就テ申争迄ニシテ他
ニ傍証不可キモノナシト裁判シタルハ不適當ノ裁判ナリトス

第三條

又第一項同判文ニ地所ノ義難決トハ地所ニ係ル争論ハ實地ニ就テ

調査セサレハ裁決シ難シト云フ義ト相聞云々トアルヲ指摘シ安永三年濟口証文ニ地所難決云々トアルハ當時該爭論ノ原因タル我新町ニテ彼ノ入會山へ私ニ林木ヲ樹テ出シタリシニ起リシナルハ地所難決ハ樹テ出シノ地果シテ入會ノ地ナルヤ否ヤハ吏員ノ檢分ナラテハ決シ難ク其檢分ヲ乞ハントスレハ入費ニ困ミ又農時ニ當ルヲ以テ隣村某々ノ取扱ニテ甲ノ地ハ樹ル所ノ林木ヲ伐拂ハセ乙ノ地ハ舊ニ依ル等其入會ノ地ト否トヲ決セシムルハ明記シアリトノ申立ハ事實ニ適セシ申立ナリトス

判決

前條々ノ理由ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ大審院ニ於テ裁判スルヲ左ノ如シ

大澤山ノ地所ハ新町ノ部内ニ在ルヲ以テ大澤山ノ地元ハ新町ナリ

トス

但大澤山秣場へ兩町入會ノ權利従前ノ通タル可キハ勿論ノ事

第五拾八號

○墓地名義爭論一件上告ノ判文明治十年十二月十一日上告
明治十一年五月二十日申渡

原告

群馬縣上野國群馬郡足

門村平民

中林甚五左衛門

被告

群馬縣上野國群馬郡足

門村平民

中林豊助

同定

群馬縣上野國群馬郡足

門村戸長

東京上等裁判所ノ判文

岸喜平

原告ニ於テ甲第二號証ニ記載スル如ク下畑三畝拾五歩ノ地所ノ所有シ該三畝拾五歩ノ畑地ハ一筆ノ地所ニシテ其中間ニ本訴ノ論地ナル墓地ヲ包含セリ
本文甲第二號証書ノ寫左ノ如シ

下街道道ノ上ル堂脇

下畑三畝拾五歩

茂兵衛

明治六年地券受ノ際該三畝拾五歩ノ畑地ヲ二筆ニ分チ地券ヲ下附セラレシモ其畝歩ハ二筆ヲ合シ三畝拾五歩ニシテ其番號モ同一ナレハ

本文地券ノ寫左ノ如シ

第千三拾五號

地券之証

上野國群馬郡足門村ノ内字屋敷間

九百拾六番

群馬郡足門村

一畑三畝步

持主 中林甚五左衛門

此地價壹圓五錢也

右檢査ノ上授與之

明治六年九月

熊谷縣令河瀬秀治印

中屬秋葉邦相印受付

第千三拾六號

地券之証

上野國群馬郡足門村ノ内字屋敷間

九百拾六番ノ内

一畑拾五步

群馬郡足門村

持主 中林甚五左衛門

此代價拾八錢也

右検査ノ上授與之

明治六年九月

熊谷縣令河瀬秀治印

中属秋葉邦相印受付

其儘打過キシニ明治九年十一月中該三畝拾五步ノ畑地ヲ三筆ト做シ墓地壹畝廿六步ヲ以テ被告(中林)外十二名持ト標記セシ畝杭ヲ立テタリ抑該三畝拾五步ノ地所ノ一筆ナリシトハ甲第二號証掲前ニ於テ一筆ニ記載セラレ且村役場ノ水帳ニ於テモ同一筆ニ記載セラレ且之卜割印セラレタルヲ以テ証ス可ク而シテ原告ハ明治二年ニ

月中調整ノ水帳ニシテ甲第二號証掲前ノ割印ト符合スルモノアルヲ村役場ニ於テ認メタリシニ爾後被告喜平ハ之ヲ隱匿シタリ又甲第五號証ノ趣旨ニ依ルハ該論地ナル墓地ノ原告ノ所有地タルトヲ認知セラレキ也

本文甲第五號証ノ寫左ノ如シ

替地証文ノ事

一廟所ノ儀往古ヨリ甚場狹ニ候處私親傳右衛門死去仕右廟所ノ側手前持地ニ可取置所存申候處其元様地替被成下堂前東ノ端ニ可取置様御挨拶ニ預リ御深切ノ段忝養父ヲ取置候且亦私方ヨリ相渡申替地ノ義ハ本途三畝步ノ内辰巳隅五步餘相渡候間其元様御所持可被成候後日口論等無之様証文仍而如件

文政二卯十月

地替人 與平 治印

世話人 與治右衛門印
三治兵衛印

因テ該墓地ハ原告外中林姓ノモノ十二名持ナル地券ヲ受ク可キモ
ノナルヲ被告豊助外十二名持チ或ハ惣村持ナル名義ヲ以テ該論地
ニ對スル地券ヲ受クルコトハ承諾シ難シト云フト雖モ被告喜平ノ申
立ル所ニ依ルニ甲第二號証前ニ調整セラレシハ舊名主則戸長岸
庄兵衛カ名主勤役中ニシテ右庄兵衛ハ既ニ死去シ而シテ喜平カ戸
長ニ任セラレシ際先役ヨリ引繼キテ受ケタル役場ノ帳簿ハ丙第三
號証ニ記載ナル所ノ如クナルニ
本文丙第三號証ノ寫左ノ如シ
明治八年自分拜命ノ節副戸長福田平四郎ヨリ受取シ役場簿

冊書類等ノ目錄寫左ノ如シ

- 午年十二月 田畑御年貢取立帳 七帳
- 同 入費帳 六帳
- 午年 入費帳 六帳
- 未年分 田畑御年貢取立帳 五帳
- 未年 入費帳 貳帳

申年分

田畑御年貢取立帳

八帳

申年

入費帳

四册

酉年分

田畑御年貢取立帳

同

年貢入費帳共

八帳

附紙三枚

戌年分

田畑御年貢取立帳

五帳

同

外三田方御年貢取立帳

壹帳

戌年分

入費帳

五帳

外四帳ハ酉年ト戌年取立

高割永錢割附帳

高割永錢割附帳

貳册

午年

御割附

舊限田

壹少

同

皆濟目錄

壹通

未年

御割附	壹通
午年分	
皆濟目錄	壹通
申年分	
御割附	縣
皆濟目錄	壹通
酉年分	
御割附	同
皆濟目錄	壹通
村繪圖	壹通
御水本帳	貳册
同下帳	四册

新屋敷書上帳	貳册
民費書上帳	貳册
水論雛形	壹册
同爲取替	壹册
同議定書	壹册
舊朱印地檢地	壹册
水論繪圖	壹枚
租稅本帳	四册
戌年分	
田方御年貢帳	壹册
民費書上帳	壹册
奥印帳	壹册

割判

マトヒ

高張

戸籍帳

壹ッ

壹ッ

壹ッ

三帳

副戸長

中林與二右衛門印

真庭金左衛門

森田長兵衛印

福田平四郎印

立會人

飯島源兵衛印

岸長十郎

明治八亥三月五日

辰年皆濟目錄

己年御割附

同年皆濟目錄

壹通

壹通

壹通

副區長

神保臥雲

立會相改

梅山傳七

田畑年貢取立帳

畑方年貢取立帳

己年年貢取立帳

田方見分書上帳

貳册

壹帳

壹帳

壹帳

御納大豆取立帳

壹帳

御城米取立帳

壹帳

夫錢書貫帳

壹帳

傳馬書貫帳

壹帳

附紙三枚

〆九帳附紙三枚

是迄巳年

飯島源兵衛

問庭金右衛門

辰ノ年分

夫錢取立帳

壹帳

夫錢内取帳

壹帳

田畑年貢取立帳

貳帳

御城米小前割附帳

壹帳

辰年夫錢取立帳

壹帳

畑方年貢取立帳

壹帳

御城米取立帳

壹帳

附紙二枚

上京夫人足并戸倉夫人足帳

壹帳

附紙壹枚

亥三月三日

右之通り正ニ預リ申候

福田平四郎

森田長兵衛印

中林興次右衛門印

記

田畑年貢取立帳	二册
畑方年貢取立帳	壹帳
巳年年貢取立帳	壹帳
田方見分書上帳	壹帳
御納大豆取立帳	壹帳
御城米取立帳	壹帳
夫錢書貫帳	壹帳
傳馬書貫帳 附紙三枚	壹帳
〆九帳附紙三枚	壹帳
夫錢取立帳	壹帳
夫錢内取帳	壹帳

田畑年貢取立帳	壹帳
同	壹帳
御城米小前割附帳	壹帳
辰年夫錢取立帳	壹帳
畑方御年貢取立帳	壹帳
御城米取立帳	壹帳
外附紙貳枚	壹帳
上京夫入足并戸倉夫人足帳	壹帳
外附紙壹枚	壹帳
〆九帳附紙貳枚也	壹帳
申年	壹册
年中小入用控帳	壹册

同
御出役諸入用帳

壹册

酉年

年中小入用控帳

壹册

外 = 附紙壹枚

午年

御出役諸入用帳

壹册

戌年

年中小入用帳

勘定不濟

壹册

申年

年中御傳馬

壹册

亥三月六日

未年皆濟後落控帳

壹册

立會人 中林與二右衛門

森田喜兵衛

福田平四郎

飯島金二郎

記

未年

年中小入用帳

壹册

午年

皆濟後小控帳

壹册

未年

御出役諸入用帳

壹册

戌年 村入費反割書上帳

壹册

辰年 役夫錢内取帳

壹册

御傳馬出高控帳

壹册

同年

村入費書上

壹册

己

田方引方控帳

壹册

酉年

村入費學校入費

貳册

記

明治三年

貳册

年中小入用帳

明治七年戌二月取立

表紙トモ五拾枚

御城米取立帳

表紙共廿九枚内白紙五枚

午十二月同

落書出シ賄米差引帳

表紙共六枚

明治六年三月

諸入用帳

壹册表紙共七枚

壹册

明治七年戌九月
諸入用帳

壹册

表紙共三拾九枚

内二帳ナリ内預リ置候也

慶應三寅年

八册

慶應三卯年

五册

御傳馬出馬調帳

壹册

元治元年十二月

田畑御年貢取立帳

壹册

本壹册

三月七日

立會相改請取候也

立會 中林與次右衛門印

同 森田長兵衛印

同 福田平四郎印

同 飯島源兵衛印

外ニ三拾壹名

岸 庄三郎殿

同 喜兵衛殿

該帳簿ノ内ニ於テ原告甲第二號証 前ニト割印ヲ做セシ所ノ帳簿ヲ

見出サズ而シテ丙第二號明治二年割附帳ニ於テ原告所有スル下畑

ハ三畝歩及ヒ拾五歩ノ二筆ニ分チテ記載セラレ

本文丙第二號証ノ寫左ノ如シ

明治二年畑方本途村中割附帳書拔ノ寫左ノ如シ

屋敷拾八步

三拾六文

茂兵衛

ケタシ道下臺

中畑三畝拾八步

百五拾貳文

下街道

下畑拾五步

拾八文壹分

下街道葬所脇

下畑三畝步

百八文六分

西鶴卷

下々畑三畝拾五步

俗糸畑ケ百五文八分

同所

下々畑三畝五步

九拾五文八分

同所ウケ繩

下々畑貳畝六步

六拾六文四分

メ壹反六畝拾七分

五百八拾貳文八分

又丙第一號明治六年耕地其他取調帳ハ原告ニ於テモ之ニ押印シ則
チ之ヲ認メタル所ノモノナルニ之ニ該下畑ハ三畝步及拾五步ノ二
筆ニ分チテ記載シタルハ甲第二號証前ニハ詳ニ其理由ヲ知ル可シ

サルモ或ハ便宜ニ依リ假リニ二筆ノ地ヲ合シテ記載セシモノナル
ヘク

本文丙第一號証ノ寫左ノ如シ

明治六年耕地其外取調帳ノ内書拔左ノ如シ

九百十三番
字下街道

反別七畝拾步

一下田六畝貳拾八步

地價貳圓四拾三錢

第千二十九號

農

持主 中林吉右衛門印

九百十三番ノ内
字下街道

一下田拾貳步

地價拾四錢

第千百三十號

農

持主 飯島 宇重印

九百十四番
字屋敷間

一中下畑貳畝拾八步

此高壹斗八升貳合
地價七拾八錢

第千三十一號

農

持主 中林吉右衛門印

九百拾五番
反別貳畝廿四步

一屋敷拾九步

地價四拾四錢

第千三十二號

農

九百拾五番ノ内
反別貳畝廿四步
一屋敷壹畝貳步

地價七拾五錢

持主 中林 豐助印

第千三十三號

持主 中林 孝兵衛印

農

九百十五番ノ内
反別貳畝廿四步
一屋敷壹畝三步

地價七拾七錢

第千三十四號

副戶長

持主 中林 與治右衛門印

九百十六番
字屋敷間

一下畑三畝步

地價壹圓五錢

第千三十五號

農

持主 中林 甚五右衛門印

九百十六番ノ内
字屋敷間

一下畑拾五步

地價拾八錢

第千三十六號

農

持主 中林 甚五左衛門印

九百十七番
字屋敷間

一下畑六畝廿八步

地價貳圓四拾三錢

九百十八番
字屋敷間
一中畑六畝貳步

地價貳圓四拾三錢

御除地ノ分

- 一 貳反七畝廿三步
- 一 貳畝廿壹步
- 一 壹反廿五步
- 一 貳反八畝拾七步

第千三十七號

持主 岸 庄 作印

第千三十八號

農 中林吉右衛門印

德昌寺 現在境內
同 大寺 大門入
同 墓所
同 藥師堂

同 川關相成地所無之
現在 八坂社々地

外

- 一 貳畝廿七步
- 一 四反四畝九步

但下々ノ方

字青名原

- 一 溜井貳反五畝步

字同

- 一 溜井壹反貳畝拾五步

字村西

- 一 空地ノ內墓所壹反七畝八步

惣村持

字屋敷間

- 一 空地ノ內墓地貳拾步

惣村持 中林廟所

字鶴卷

一空地ノ内墓所廿五步

惣村持
飯嶋廟所

字東京

一空地ノ内仕置場壹畝五步

惣村持

右當村方田畑一筆限リ取調地價書添奉差上候以上

明治六年六月

群馬郡足門村

立會人

福田平四郎印

同

問庭金左衛門印

副戸長

中林興次右衛門印

戸長

岸庄兵衛印

前書之通相違無御座候依テ奥印仕奉差上候以上

右副區長

松岡善十郎印

區長

住谷權平印

熊谷縣令

河瀬秀治殿

而シテ丙第一號証前ニ本訴ノ論地ナル墓地ハ惣村持中林廟所ト記載セラレタリ其明治九年中豊助外十二名云々ノ畝杭ヲ立タルハ該論地ハ素ヨリ一村共有ノ墓地ナルモ特ニ中林姓十三家ノ者ノミ之ニ葬埋シ來リタルヲ以テ見出シノ爲メ假リニ豊助外十二名云

々ト標記セシ畝杭ヲ立テタル迄ニテ其一村共有地ナル下ハ丙第一
 號証前ニ記載セラレタルカ如クナレハ其地券ヲ受クルニ當テハ
 一村共有ノ名義ヲ以テス可キモノナリト然ルニ甲第二號証前ニ
 下畑三畝拾五歩ヲ合シテ一筆ノ如ク記載シタルハ村役場ノ帳簿ニ
 就テ之ヲ調査スルモ其理由ヲ知ル可キモノナク其原告ニ於テ下畑
 三畝拾五歩ハ必ス一筆ナリト云フモノ及ヒ被告喜平カ甲第二號証
 前ニ割印ト符合スル所ノ水帳ヲ隱匿セシノ証ヲ立テス而シテ即
 今村役場ニ存在スル帳簿類ハ被告喜平ニ於テ先役ヨリ引繼キヲ受
 ケタル所ノ帳簿ナルニ其丙第一號証前及ヒ丙第二號証前ニ於テ
 現ニ原告ノ所有地ナル下畑ヲ三畝及ヒ拾五歩ノ二筆ニ分チ而シテ
 該墓地ノ如キハ丙第一號証前ニ於テ天物村持ナル旨ヲ記載セラレ
 タレハ原告ニ於テ甲第五號証前ニ有スルモ該証書ハ人民相互ノ

私約ナレハ之ヲ以テ村役場ニ存置スル公正帳簿ノ効ヲ打消スヲ得
 サルニ依リ原告ニ於テハ別ニ被告喜平カ証トスル村役場ニ存在セ
 シ所ノ丙第一號丙第二號証前及ヒ丙第三號証前ニ反對スル所ノ
 証ヲ有セサル限リハ甲第五號証前ニ以テ該墓地ヲ原告所有地下
 畑三畝拾五歩ナル一筆ノ地所ノ内ニ籠リタル者トシ之ヲ原告ノ所
 有地ナル者ト認メ難シトス其畝杭ニ豐助外拾貳名云々ト記載セシ
 ハ被告豐助於テ豐助ハ中林姓十三家ノ内ニ於テ宗家タルモノナル
 ニ該墓地ハ中林姓十三家ノ墓地ナルハ戸長ニ於テ其宗家タル所ノ
 豐助外十二名云々ト標記セシ所ノ畝杭ヲ立テタルハ相當ナル處分
 ナルヘシ然リト雖モ該畝杭ハ戸長ノ所分ニ係リ豐助ハ干預セサル
 ナリト申立タリ然ルニ喜平ニ於テ該畝杭ハ唯見出シノ爲メ假リニ
 建設セシ迄ニシテ其地券受ニ於テハ一村共有ノ名義ヲ以テスヘシ

ト云フ上ハ該畝杭ニ豊助云々ト記載アルモ豊助ニ於テ關涉アラセ
ルモノトス因テ原告ノ申分不相立儀ト可心得候事

但原告及ヒ豊助ヨリ其家筋ノ事柄ニ關セシ申立ハ本訴裁判ノ要
點ニアラサルヲ以テ之カ判決ヲ爲サ、ル儀ト心得可シ
明治十年
十一月二
日

大審院ニ於テ

原告 群馬縣上野國群馬郡足門村平民中林甚五左衛門上告
ノ要領

第一條

東京上等裁判所ノ判文ニ被告喜平カ甲第二號証ノ割印ト符合スル
所ノ水帳ヲ隱匿セシノ証ヲ立テストアレモ甲第二號証ハ村役場ノ
帳簿ヨリ成立チタルモノナレハ割印セシ原帳ノ村役場ニ在テ原告

ノ有セサルハ勿論ナルニ水帳ノ有無ヲ取調ヘラレヌ被告ノ提供ス
ル反別取調帳ノミニ據リ判決セラレタルハ聽斷ノ定規ニ違ヒタル
不條理ノ裁判ト思考ス

第二條

東京上等裁判所ノ判文ニ該墓地ハ中林姓十三家ノ墓地ナレハ戸長
ニ於テ其宗家タル所ノ豊助ヲ主トシ豊助外十二名云々ト標記セシ
所ノ畝杭ヲ立テタルハ相當ナル所分ナル可シト判決セラレ其地券
受ニ於テハ一村共有ノ名義ヲ以テスヘシト云フ上ハ云々トアルハ
何ニ依テ斯ノ如キ判文ヲ下サレタルヤ苟モ豊助外十二名持ナル表
名ヲ掲ケタレハ則チ豊助外十二名ノ私有地ナリ然ルチ地券証ノ三
一村共有ノ名義ヲ以テスト云ハ事實ト名義ヲ異ニセル不條理ノ裁
判ト思考ス是レ上告シテ破毀ヲ求ル所以ナリ

辨明

第一條

中林甚五左衛門ニ於テ甲第二號証ハ村役場ノ帳簿ヨリ成立タルモ
 ノナレハ割印セシ原帳ノ役場ニ在リテ云々ト申立ルト雖モ東京上
 等裁判所ニ於テ明治十年十月十七日中林甚五左衛門カ口供ニ第二
 號証ハ原告ニ於テ自分ノ所持地ノ反別ヲ相心得不申候ニ付右ヲ知
 ランカ爲メ役場ノ帳面ヨリ書拔キ候者ヲ役場ヨリ請取候儀ニ御座
 候トアルヲ視レハ第二號証ハ水帳ニ據リ割印シタルト認メタルニ
 モ非ス又必ス三畝拾五歩ノ地内ニ壹畝貳拾六歩ノ墓地ヲ混合シタ
 ル旨記載アルニ非サレハ必ス水帳ヲ要スヘキ事ニ非ス抑裁判所ニ
 向テ裁判ヲ仰ク者ハ各其訴訟ニ關スル証據ヲ提供スヘキ筋ナルニ
 中林甚五左衛門ニ於テ岸喜平カ水帳ヲ隱匿セシトハ陳述迄ニテ証

據ヲ供セサルニヨリ東京上等裁判所ニ於テ水帳ヲ隱匿セシ証ヲ立
 スト裁判シタルハ不條理ノ裁判ニ非ストス

第二條

豊助外十二名持ナル表名ヲ掲ケタルハ則チ豊助外十二名ノ私有地
 ナリ云々ト申立ルト雖モ東京上等裁判所ノ判文ヲ閱スルニ爭フ所
 ノ地所ニ岸喜平カ畝杭ヲ立タルトハ一村共有ノ墓地ナルモ特ニ中
 林姓十三家ノ者ノミ之レニ葬埋シ來リタルヲ以テ見出ノ爲メ假リ
 ニ豊助外十二名云々ト標記セシ畝杭ヲ立テタル云々トアルヲ以テ
 視レハ必ス豊助外十二名ノ私有地ナリト云フ標杭ニ非ス尙村役場
 ノ帳簿ニ貳拾步惣村持中林廟所トアル上ハ豊助外十二名ノ私有地
 ノ標杭ナリト申立シハ不條理ノコナリトス

判決

四〇三

前條ノ如キ夫以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由無キ者ト
ス

第五拾九號

○貸金催促反對一件上告ノ判文明治十年十一月廿七日上告

原告

堺縣第一大區二小區大

和國添上郡和爾村平民

田島傳四郎

被告

堺縣第一大區一小區大

和國添上郡奈良北風呂

町平民

谷川喜六

大阪上等裁判所ノ判文

貸金催促反對ノ控訴遂審理處

原告(田島傳四郎)訴フル要旨ハ被告提供スル第一號証書ハ

本文第一號証書寫左ノ如シ

第一號

引當入金圓借用証券

□○□○□○□○
一金四百圓

但シ利息ノ儀ハ一个月ニ金百圓
ニ付金壹圓五拾錢宛

右者此度無據要用ニ付借用致候處實正也然ルニ返金ノ義ハ來明

治九年十一月廿五日限元利取揃速ニ返却可仕候右爲引當左ニ

大和國添上郡檜村ノ内

字御歳田

四百四十六番

同郡和爾村

五〇三

一田四畝步

田嶋傳四郎印

此地代金貳拾圓

大和國添上郡和爾村ノ内

百四十一號

同郡同村

一屋敷壹反六畝廿壹分

持主 田嶋傳四郎印

此地代金六拾九圓六錢貳厘五毛

右地券証并ニ一筆限帳トモ差入置候

同所ニ有之

一第一番酒藏

但シ 桁行十九間半
梁行五間

一个所

此坪九拾七坪五分

同

一第二番二楷土藏

但シ 桁行三間
梁行二間

一个所

此坪六坪

同

一第三番稻小屋

但シ 桁行三間半
梁行十一間

一个所

此坪三拾八坪八分

同

一第四番本屋

但シ 桁行七間半
梁行四間

一个所

此坪三拾坪

同

一第五番米藏

但シ 桁行十間
梁行三間

一个所

此坪三拾坪

同

一第六番別屋

但シ 桁行十間
梁行二間

一个所

此坪貳拾貳坪

一平桶

七本

一細高桶

四拾本

一唐臼

拾丁

其外釜船始×酒造道具一式

前書之通引當ニ差入置候地所始×建家其外所道具トモ我等從來所持罷在候處此度金圓借用金引當ニ差入置×候若期限爲及淹滯候得者引當物品賣拂代金ヲ以返却仕候上元利金ニ不足相立候時ハ本人ニ不拘請人ヨリ速ニ辨償可仕候若引當物品是迄脇外へ書入抵當ニ差入置候義ハ不及申自他ノ差構更ニ無之候萬一連印之内死失事替リ等出來候厄跡相續人之者ヨリ無異義前條ノ通急度掃明可仕候右ニ付其元殿へ聊御損難御迷惑相掛ケ申上間敷候爲

後日引當入金子借用証券仍如件

第一大區十小區添上

郡和爾村

借用人 田島傳四郎印

明治八年十二月廿五日

同大區五小區奈良阪

新町

引受人 中室喜七印

赤松庄助殿

印 第九十四號

前書之通相違無之因テ奥印候也

戸長

富森定四郎印

副戸長

建物繪圖(戶長奧)印添略之

村井貞太郎印

明治八年十二月廿五日原告所有ノ耕地并ニ屋敷土藏及ヒ酒造道具等ヲ抵當トシ明治九年十一月廿五日ヲ返濟期限トナシ赤松庄助ヨリ金四百圓借用セシニ相違無之然ルニ明治九年四月十日該証ヲ赤松庄助ヨリ被告ヘ譲リ受ケタル趣ニテ明治十年四月十二日原告ヲ相手取リ貸金催促ノ義ヲ大阪裁判所堺支廳ヘ出訴セラレ同所於テ審問ノ末結局明治十年五月廿二日原告申分不相立旨ノ裁判ヲ受ケタリ然レモ抑原告ト庄平ノ間ニ於テ從來種々ノ取引アルニ付之レト相殺セハ該借用金ノ全額彼レヘ受取ル丁不相成ヨリ漫リニ他ヘ譲リ渡シタルモノニシテ被告第二號讓證書ハ

本文第二號讓證書寫如左

第二號

讓リ証券

一本紙証券之通り去明治八年十二月二十五日添上郡和爾村田島傳四郎所持田地始屋敷地并建家トモ抵當ニ取之元金四百圓利息月々金百圓ニ付壹圓五拾錢宛定約ニテ同人ヘ貸遣シ罷在候確証貴殿ヘ正ニ讓リ渡シ申所實正也然ル上ハ期限ニ至リ候得共元利可然御取立可有之候後日讓リ証券仍テ如件

大阪府下第一大區十

三小區高麗橋四丁目

讓リ渡人

明治九年四月十日

赤松庄助印

奈良北風呂町

谷川喜六殿

明治九年四月十日ト記載有之然ラハ則チ未タ返濟期限内ナルニ付之レテ讓渡スニ於テハ証書書換ノ示談モアル可キニ曾テ其義無之因テ該二號証書ハ確實ノ証書ト看認難ク假令之レフ確ノモノトナスモ元來不動産ヲ書入レタル公証ノ証書ナレハ之レフ讓リ渡スモ又公証ノ手數ヲ經可キ筈ナルニ之レヲ爲サス且被告第一號証書ヲ調製セシ時戸長於テ明治八年第四百十八號諸建物書入質ノ規則ヲ熟知セサルニ付地所建家及ヒ酒造道具等區別セサル証書ナルモ假リニ奥書割印致シ置クトノ談シヲ受ケタルニ依リ追テ書改ムヘキ筈ナルニ赤松庄助ヨリ書改メヲ求メサルニ付其儘致シ置キタレハ則チ該規則ニ背戻シタルモノニシテ書入質ノ効ハ無之依テ前顯陳述スル如ク無効ノ書入質証書并ニ確實ナラサル讓リ証書ヘ對シ原

告ハ行フ可キ義務之レナキ旨陳述ス

被告谷川喜六答フル要旨ハ第一號書入質証書ハ明治八年十二月二十五日原告於テ同人所有ノ耕地并ニ屋敷土藏及ヒ酒造道具等ヲ抵當トナシ明治九年十一月二十五日ヲ返濟期限止定メ赤松庄助ヨリ金四百圓借用セシ事然ル處右庄助ト被告ト間言取引有之旨付明治九年四月十日第二號証書ヲ以テ第一號証書ヲ庄助ヨリ被告ヘ讓リ受ケタルニ右返濟期限ニ至リ辨償セサルニ付明治十年四月十二日原告ヘ係リ貸金催促ノ義ヲ大阪裁判所堺支廳ヘ出訴セシ處結局明治十年五月二十二日被告請求ノ通り裁判ヲ受ケタル然ルモ原告不服ヲ聲ラシ今回控訴セシナレハ始審裁決ハ至當ナル旨答辨ス

判決

第一條

原告於テ被告提供スル第一號証書ハ地所建家及ヒ酒造道具等併書
ナシタルモノニシテ戸長ニ於テモ假リニ與書割印セシモノナレハ
書入質ノ効之レテ旨陳述スレテ地所建家及ヒ酒造道具等併書ナ
シタルトテ書入質ノ權ヲ失フ可キ理由之ニ多且ツ戸長ニ於テ假
リニ與書割印セシ証左無之上ニ該証書ハ公証ヲ受ル証書ト看認
サレヲ得ス

第二條

被告提供スル第二號讓渡証書ハ其第一號借用証書ニ於テ返濟限内
ニ生シタル所生之ナレハ其應シテ前談モテ其返濟限内且ツ第一號証書ハ公
証ノ証書ナレハ之ヲ假讓渡候共亦公証返手數ヲ經テ返濟限内其
義ヲ以テ即チ確實ナリナル証書ナル旨陳述スレテ應シテ示談ヲ爲
スト爲サ、ルハ明治九年七月六日以前ニ係ル讓渡証書ナレハ債主

ノ特權ニシテ其公証ヲ經タル証書ハ讓渡スモ亦公証ヲ經ヘキト
ノ成規無之ニ付原告申分採用セス
前條々ノ筋合ナルニ付被告請求スル本訴ノ金額ハ悉皆原告目以返
還ナスヘキ事 明治十年九
月十四日
大審院ニ於テ

原告 田島傳四郎上告ノ要旨

第一條

大阪上等裁判所ニ於テ被告ノ提供セル第二號証書ハ明治九年七月
六日以前ニ係ル讓渡証書ナレハ債主ノ特權ニシテ其公証ヲ經タル
証書ハ讓渡スニモ亦公証ヲ經ヘキトノ成規無之ニ付原告申分採用
セスト判定セラレタレ其被告ハ讓渡受ケタル物品則チ第一號借
用証書ハ曾テ原告ヨリ赤松庄助ニ對シ公正ノ手續ヲナシタル証書

ナルヲ以テ被告若シ譲リ受ルニ當ラハ原告方ニ通知シ其公正ノ手續ヲ經可キハ當然ナリ今ヤ其事無キニ於テハ何ニ據テカ該讓渡ノ明治九年第九十九號公布以前ニ係レリト見認ルヲ得シヤ縱令該証日附ノ如ク譲リ受タルモノト爲スモ明治九年七月六日ノ公布ヲ了知スルニ至リテハ其役場へ届出テ名前書換ノ手續ヲ爲スルキハ法理上免カル可ラサル者ナリ然ルニ一應ノ示談ヲ爲スト爲サルハ明治九年七月六日以前ニ係ル讓リ証書ナレハ債主ノ特權ナリト判決アリシハ條理ニ適セサル裁判ナリト思考ス

第二條

大阪上等裁判所審理中原告申立ニ因リ被告ノ提供シタル安田久藏并原告外一名連署被告宛ノ約定書(本訴甲第一號)ニテ被告請求スル所ノ借入金ハ其實安田久藏中室喜七并原告等組合ノ米商結社資本ニ供

シタルト明瞭ナレハ獨リ原告ノ負擔ス可キ義務ニアラサルヲ以テ其連帶者安田久藏等ヲモ審問アリタキ旨上申書(本訴甲第二號)ヲ呈シ置タルニ領収セラレシ而已ニテ之ヲ不問ニ措キ遂ニ判決文中ニモ採用セラレサリシハ聽斷ノ定規ニ乖キタル裁判ナリト思考ス

辨明

第一條

被告第二號証ハ被告第一號証即チ貸金証書ノ權理ヲ赤松庄助ヨリ被告喜六へ明治九年四月十日ニ讓與ヘタル事實ヲ証スルノ書面ナリトス而シテ明治九年太政官第九十九號布告ニ金穀等借用証書其貸主ヨリ他人ニ讓渡スルハ其借主ニ証書ヲ書換ヘシムヘシ若シ之ヲ書換ヘシメサルニ於テハ貸主ノ讓渡証書有之ハ仍ホ讓渡ノ効ナキモノトスルアル法律ハ明治九年七月六日ニ始テ頒布ナリタリ

乃チ被告第二號証ハ明治九年太政官第九十九號布告以前ニ當テ成立タルモノナリ如是シ明治九年太政官第九十九號布告以前ニ借主ノ承認ヲ經ス他人ニ讓渡シタル貸金証書オモ右第九十九號布告ニ照準シ書改ムベシ若シ之ヲ改メサルハ讓渡シノ効力ナキトシテ法律ニアラサレバ大阪上等裁判所カ一應ノ所談ヲ爲スト爲サルハ明治九年七月六日以前ニ係ル讓渡証書ハ債主ノ特權ニシテ云々ト裁判シタルハ不道理ノ裁判ナリト云フヘカラス

第二條

本件詞訟ノ基源ハ被告第一號証即チ原告傳四郎ヨリ赤松庄助ニ差入アル元金四百圓ノ借用証書ニ依テ其元利金返辨ヲ請求シタル筋ナリ故ニ原告傳四郎ヨリ甲第一號証即チ被告喜六ヨリ明治十年九月十四日ニ大阪上等裁判所ニ提供シタル明治九年一月十二日附約

定書曰ク

奈良餅飯殿町寄留赤松庄助殿方ニテ去明治八年十二月本紙確書面ニ通我等ニ金圓借用申處實正也然ル上ハ右利足ノ儀ハ毎月三十日限リ必差入可申候若萬一利足ニ度ニテモ及淹滯候時ハ譬期限中ト雖モ元利一時ニ御取立被成下候共更ニ異儀申間敷候爲後日約定書仍テ如件

明治九年二月十二日 本人 安田久人造印

添上郡和爾村 田島傳四郎印

奈良阪新屋町 引受人 中喜七印

奈良北風呂町

取扱人谷川喜六殿

ト及ヒ原告傳四郎ヨリ明治十年九月八日附ノ大阪上等裁判所ニ供呈シタル上申書ニ前顯甲第一號証ノ如ク右金員ハ其實安田久造中室喜七等ト合併商業ニ使用シタルモノニテ原告傳四郎一人ノ私費ニ供シタルニアラサレハ返濟ノ義務ヲ原告傳四郎一人ノ責任ニヘキモノニアラサルコト論辨シタリト雖モ右ハ被告傳四郎ト安田久造等トノ關係ニシテ固ヨリ被告第一號証及ヒ被告第三號証ニ關涉セサルモノナリ於是テ大阪上等裁判所及ヒ原告傳四郎上申書ヲ不問ニ措キ本件貸借ニ就テ之詞訟ニ對シ裁判法與ニタルハ聽斷ニ定規ヲ乖キタルヲ以テ裁判ニ及ラズトスルニ本裁判所ニ於テ判決

前條ノ如クナルヲ以テ大阪上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第六拾號

○野山入會定約違變上告ノ判文
明治十年八月十一日上告
 明治十一年五月廿二日申渡

原告

岐阜縣美濃國大野郡古

川村惣代同村一番地平

民副戶長

大野半助

同

同國同郡同村惣代同村

一番地平民井深新兵衛

代人

東京第五大區二小區淺

草小島町三十五番地寄
留茨城縣士族

尾木 漸

被告

岐阜縣美濃國大野郡寺

内村三番地戸長

常富 次郎右衛門

同

同縣同國同郡同村一番

地副戸長

武藤 榮助

東京上等裁判所ノ判文

原告(寺内村)訴フル要旨ハ寺内村野山へ被告古川村ノ者共往古ヨリ立
入ヲ許シ肥シ草爲刈取來リタル次第ハ被告(古川村)証據物第一號ヨリ

第五號迄ニ掲載ノ通りナレモ右野山ハ元來兩村共有ノ入會地ニ非
ス全ク示談ヲ以テ被告方(古川村)へ立入ヲ許シ山手米トシテ正保年度
ハ一箇年米三斗三升宛延寶度以來ハ五斗宛取立來則其約定ハ第一
號正保度野山爭論ノ末舊領主役場へ差出タル受書ニ記載セシ通り
古瀬村ノ人馬寺内村ノ野山前々ノ如ク無相違入ルトアリ
本文第一號証書ノ寫左ノ如シ

御請狀之事

一寺内村野山之儀ニ付古瀬村ト當六月ヨリ出入御座候故雙方御
訴訟申上候處被聞召届被仰付ノ趣向後聊相背申問敷候御事
一古瀬村ヨリ寺内村へ野山手先規ヨリ納三斗三升宛ニテ御座候
然處申酉兩年寺内村へ有ノ山手出シ不申候儀古瀬村ノ越度ニ相
究申候御事

一寺内村ノ井料米先規ヨリ更地村へ三斗三升宛出シ可申テ古瀬村ノ野山茂三斗三升ニ候故未年迄此山手ニ立用仕候申年ヨリ更地村井料米大垣様御赦免被成候左候得ハ野山手ハ古瀬村ヨリ寺内村へ出シ可申ノ處申酉年無沙汰仕候爲御過怠ト右一倍ニ被仰付兩年分合壹石三斗貳升古瀬村ヨリ寺内村へ受取可申候御事

一右ノ井料米寺内村ヨリ更地村へ出來リ申候ヲ寺内村ニハ先規ヨリ井料米無御座候ト偽リシ目安書ニ載公事仕ル寺内村ノ爲御過怠ト山御年貢去年迄ハ納七斗宛御納所仕候當年ヨリ一倍ニ被仰付壹石四斗宛毎年無相違寺内村ヨリ納所可申御事

一古瀬村ノ人馬寺内村ノ野山へ前々ノコトク無相違入可申然ハ野山手ハ當戌年ヨリ納メ五斗宛毎年古瀬村寺内村へ相渡可申御事

右ノ條々少茂相背不申兩村互ニ申合セ野山ノ儀ニ付而申分仕間敷候若違背ノ族御座候者兩村ノ内何者ニヨラス急度曲事被仰付候聊御恨ニ申奉存間敷候爲後日御請狀仍而如件

正保三年丙戌八月十日

古瀬村庄屋

利右衛門

右村年寄

庄兵衛

同村

七左衛門

同村

庄右衛門

同村

同村 興 作

長 吉

寺内村庄屋

市郎 右衛門

右村年寄

喜 兵 衛

同村年寄

九 兵 衛

同村

興 右 衛 門

同村

彦 右 衛 門

同村

喜 助

御奉行所

此表書五箇條ノ通古瀬村寺内村ヨリ一札差出候以來能可相守候
爲後日請狀控令裏判相渡者也

正保三年

丙戌八月十日

藤田角左衛門印

奥田重右衛門印

淺川又右衛門印

野崎重左衛門印

第二號延寶年度ノ條約書ニ村北ハ前々ノ通村前野ハ跡々ヨリ有之
林ヲ除ケ相殘ル芝野ハ互ニ入村西三味野ハ古川村人馬入不申

究ナリト有之

本文第二號証書ノ寫左ノ如シ

寺内村野山ノ内へ古川村ヨリ入來候然處ニ今度出入出來仕候ニ付暖ニテ雙方和談仕相濟申究之事

一野山手ノ儀ハ納米五斗ツ、當申ノ年ヨリ以來毎年古川村ヨリ寺内村へ出申究也

一村北ハ前々ノ通村前野ハ跡々ヨリ有之林ヲ除ケ相殘芝野へハ互ニ入り申究也

一村西サンマイ野ハ古川村ノ人馬入不申究也

右ノ通り暖雙方合點ノ上ニテ相究埒明申上ハ以來互ニ少茂申分有之間敷候爲後々年証據兩村庄屋與頭并扱之者連判ニテ兩村ニ指置申候以上

延寶八年

庚申八月十五日

古川村庄屋

專五兵衛印

同與頭

德兵衛印

同

強兵衛印

暖人相羽村

久藏印

暖人下礪村

孫九郎印

暖人牛洞村

太左衛門印

暖人八木村

左 次 兵 衛 印

暖人寶來村

小 兵 衛 印

暖人一瀬古村

五 右 衛 門 印

寺内村エ

第三號文政年度爲取替約定書第一條ニ御林ノ儀ハ別テ大切ノ事ニ付木類下草ニ至ル迄一切刈取不致尤草芝落葉等ハ是迄ノ通ト有之第二條ニ御宮林ノ儀云々第三條ニ寺内村宮林ノ儀ハ是迄ノ通堅相守可申尤山神林廣狹ノ儀ニ付行違ノ云々宮山々神林へ立入申間敷ト有之右箇所へハ被告ノ立入ヲ禁シタルト判然タリ

本文第三號証書ノ寫左ノ如シ

爲取替一札之事

寺内村野山ノ儀ハ前々ヨリ古川村ヨリ野山手米差出立入來候處近年心取行違ノ儀追々出來イタシ爭論出入ニモ可及趣キ相成雙方勘考ノ上隣村ノ事故不和合ニ成行候而ハ萬端不取締ノ基ニ付今般互ニ打解熟談ノ上以後故障等出來不致様取極左ノ通

一御林ノ儀ハ別テ大切ノ事ニ付木類下草ニ至迄一切刈取候儀致問敷段互嚴敷吟味可致尤落葉草芝之外堅刈取申間敷事

一御宮添林ノ儀去々卯年賣拂被成候故此節漸松木苗萌出候ニ付當時木草ノ差別不相分候故立木生立兼候ニ付依之當午年ヨリ戌年迄五箇年ノ間屹度立入申間敷候右年限ノ上木草相分リ候上ハ下草ノ儀ハ是迄ノ通相心得可申候事

一寺内村宮林ノ儀ハ是迄ノ通堅相守可申尤山神廣狹ノ儀ニ付村
 人心持行違ノ儀有之自ラ猥ニ相成候ニ付此度立會熟談ノ上間敷
 相定互ニ立入猥个間敷タメ相極左ノ通リ
 一宮山之分所々不殘
 一水神々木五本ト相定候
 一山神
 一山神
 一山神
 右宮山山神へ立入間敷事
 右之通雙方立會熟談之上相極候上ハ以後書面ノ通屹心得違無之
 様相慎別テ永久睦敷可致候爲後々年村役立會連判ノ一札爲取替
 置候仍テ如件

文政五壬午年閏正月

古川村立會五人組兼

孫 兵衛印

同村立會

半 平印

右同斷

傳 右衛門印

右同斷

甚 兵衛印

右同斷

文 五兵衛印

同村名主

四郎兵衛

寺内村

御村役衆中

第四號文政年度被告方(古川村)～渡置タル添書中ニモ宮山ノ分所々不
殘立入申問敷ト有之御歛平ノ儀ハ云々下草ハ和談ノ上是迄ノ通ト
アリテ被告(古川村)ノ立入ヲ禁シタル場所ニテモ下草ノミ刈取丁ハ許
シタル者ナリ

本文第四號証書ノ寫左ノ如シ

添書之覺

閏正月十日熟談ノ上爲取替書附致置候書面ノ中宮山ノ分所々ニ
不殘立入申問敷ト有之候處御歛平ノ儀ハ熟談ノ上松木ノ類ハ在
來ノ通ニ御相續被成爲生立下草ノ儀ハ是迄ノ通ニ陸敷可致様右
ノ通相心得後年故障爲無御座添書附致置候處仍テ如件

文政五壬午年

閏正月廿四日

古川村立會

甚 兵 衛印

右同斷

千 五 兵 衛印

右同斷

傳 右 衛 門印

右同斷

半 平印

五人組頭

孫 兵 衛印

名主

四 郎 兵 衛印

寺内村

御村役衆中

第五號明治二年八月中ノ爲取替約定書第一條末文ニ寺内村宮林山神水神へハ立入間敷トアリテ被告村方(古川村)立入ヲ禁シタル事ハ判然タリ且山神水神ニテ行違云々立會示談ノ上廣狹ハ有形ノ通りト有之ナレ凡右ハ其節雙方共現地ニ臨ミ場所ヲ改メタル譯ニハ無之文政年度約定書(前二掲ク)ノ文意ヲ其儘移シ來リタル者ナリ又第二條ニ御鍬平並御宮添林ノ義ハ文政年中爲取替書面ノ通堅ク相守可申尤落葉下草ハ云々ト有之即チ此場所モ被告方(古川村)へ伐木ヲ不許落葉下草ノミ刈取ヲ許シタルハ明瞭ニシテ

爲取替一札之事

寺内村野山ノ儀ハ前々ヨリ古川村ヨリ野山手米差出シ入會ニ御座候處去ル安政元甲寅年心取行違ノ儀追々出來仕爭論出入ニ相成居候處今般雙方勘考ノ上隣村ノ事故不和合ニ成行候而ハ萬端不取締リノ基ニ付互ニ打解熟談ノ上以後故障等無之様取極メ左ノ通

寺内村御宮林所々ノ義是迄通り堅相守可申候尤山神水神ニ而心持行違ノ族有之自ラ猥ニ相成候ニ付立會熟談ノ上廣狹ノ儀ハ今般有堅地ノ通ニ相極メ立入亂个間敷義致間敷タメ相極メ申候上ハ宮林山神水神へ立入間敷事

一御鍬平並御宮添林ノ儀ハ文政年中爲取替書面之通堅相守可申候尤落葉下草ノ儀ハ和談ノ上是迄ノ通御心得可被成候事

右之通雙方立會熟談ノ上相極メ候上ハ以後書面之通屹心得違無

之様相慎別テ永久陸間敷可致候爲後々年村役人立會連判之爲取
替仍而如件

一明治二己巳年

孫右衛門印

同村立會

新 兵 衛 印

同村立會

同村立會

同村立會

同村立會

同村立會

同村立會

同村同斷

傳右衛門印

同村名主

同村名主

同村名主

同村名主

前陳如以寺内村野山へ被告村方(古川)立入ヲ許シタルハ單ニ肥

草下落葉下ヲ取ラスル迄ノ儀ニテ其証ハ元祿年度天垣并松本而

藩ニ於テ舊政府ノ命ニ因リ美濃國全圖調整相成タル御國繪圖ニ稱

スル者有之即原告(寺内)ヨリ差出シタル圖面ハ其寫ニテ該圖面中ニ

村前芝野下北草山へ代米五斗宛戸田民部様御知行所古川村ヨリ出

シ草芝肥ニ仕云々記載有之伐木ヲ許スノ明文無之

本文圖面中記入ノ寫左ノ如シ
 村前芝塾ト北草山へ代米五斗宛々兵田民部様御知行所古川村ヨ
 リ出シ草芝コヤシニ仕候
 又正保年度以來ノ約定書類(前掲第一號証)ニモ伐木スルトノ
 廉ハ不相見而シテ延寶年度ノ約定書(前掲第二號証)中ニ跡々ヨリ有之
 林ヲ除ケ相殘ル芝野へ入云々ト有之元來木立ノ有ル場所へハ被告
 村(古川)不立入廉明瞭ニシテ其伐木ヲ不許証據前後符合セリ加之原
 告村(寺内)野山内御林並宮添林村前草野等ノ場所ハ去ル明治二已
 年中齋領主ヨリ悉皆原告村(寺内)各戸へ分割シ開墾被申付既ニ八拾
 四石三升餘高入ニ相成タルニ其節被告村(古川)ニ於テ毫モ關セサリ
 キ是則元來共有ノ入合ニ非サル一証タルへキナリ故ニ地券發行ノ
 際該野山ハ一圓原告村(寺内)村持ニテ地券ヲ受タリ然ル處右地券受并

地租改正ニ付稅額相増タルヨリ山手米ノ義モ増方可致旨被告村方
(古川)へ掛合ニ及ヒタルニ確答セサルヲ以テナラス明治八年分ヲ不納
 致置ナカラ却テ該野山兩村共有ニシテ同等ノ權利又有スルモノ
 ナリト主張(被告村古川)ヨリ岐阜縣廳へ出訴ニ及ヒタル同縣廳官於
 テ裁判ナリタル要領ハ伐木ヲ禁シタルハ野山内宇宮添林御鉞平ノ
 兩所ニ限リタル義ニテ右兩所ノ約定ニ依テ野山全面ノ約定ニ及ホ
 ス條理無之トセラレ右兩所以外ハ自然被告方(古川)ニテ伐木スルモ
 妨ナキ様ノ趣意ナレ凡前ニ陳申スル如クニシテ往古ヨリ被告村(古川)
 村ノ立入ヲ許シタルハ全ク肥シ草ト落葉トヲ取ラスル迄ノ事ニシ
 テ薪タリトモ木類ヲ伐採ラスルノ約定ハ曾テ無之ニ付同廳ノ裁判
 ハ承服シ難シ依テ前々約定ノ如ク被告村(古川)ニテ原告村(寺内)野山
 内何レノ箇所ヲ問ハス伐木不致様裁判受度旨申立タリ

被告(古川)答フル趣意ハ被告古川村ハ往昔古瀬村ト稱シ原告寺内村野山へ立入來リタル次第ニ則第一號ヨリ第五號迄ノ約定書面(前ニアル原告ノ証據モノト授受ノ宛名ヲ倒置スル等ノ差)ニ掲載ノ如クニシテ寺内村野山全面ノ内字宮林山神水神宮添林御鉞平ノ五筆其現地七箇所ハ第二號延寶度以來ノ契約モ有之ニ付被告村(古川)ニテ伐木不致落葉下草ノミヲ採其餘ハ何レノ箇所ヲ問ハス木ヲ伐リ草ヲ刈來ルニ往古ヨリ何等故障モナカリシニ明治九年三月中ニ至リ原告(寺内)ヨリ右立入夫差止ルトノ斷リ有之加之右野山ヲ原告村(寺内)ノ者共戸別ニ分割シ銘々ノ所有トナシ地券下渡ノ儀ヲ地方官ニ願請セシ趣ニテ片時モ難捨置ニ付不得止明治九年四月廿八日岐阜縣廳へ出訴ニ及ビタル處既ニ原告(古川)陳述ノ如ク裁判ナリ然レテ原告(寺内)ニ於テ元祿年度大垣松本兩藩ニ於テ調製ナリタル

美濃國全圖ニテ御國繪圖ト稱スルモノハ寫ニ村前芝野ト北草山へ代米五斗宛戸田民部様御知行所古川村ヨリ出シ草芝肥シニ仕云々ト有之伐木ヲ許スノ明文無ク又正保度以來ノ約定書(第一號ヨリ第三號)ニモ同様伐木致スドノ廉不相見而シテ延寶年度ノ約定書(第二號)中ニ跡々ヨリ有之林ヲ除ケ相殘ル芝野へ入云々トアリテ元來立木ノアル場所へハ被告村(古川)ニテ立入ラサルト明瞭云々或ハ該野山ノ内所々舊領主ヨリ原告村(寺内)各戸へ分割シテ開墾申付ラレタル際被告(古川)ニ於テ毫モ關セサリシハ原被兩村共有ノ入會ニ非サル証ニシテ既ニ地券モ原告村(寺内)限受タリト或ハ被告(古川)ニテ山手米不納云々ト種々原告(寺内)ヨリ申立レ右元祿年度調製シタル云々ノ繪圖ハ原告村限リニ製造シタルモノニシテ被告(古川)ニ於テ關係無キモノナレハ証據トハ爲シ難シ又野山ノ内原告(寺内)ニテ開墾ノ際

袖手傍觀シテ關係セサルハ畢竟舊領主ヨリ被申付タル開墾ナレハ
 ナリ又山手米ハ不納シタルニ非ス右ハ原告村(寺内)ヨリ年々ヌレ田
 米ト稱シ米四斗宛可受取分有之ヲ以テ差引シテ不足ヲ渡スヘキ旨
 既ニ及掛合タル處前陳ノ如ク却テ原告村(寺内)ヨリ不當ノ掛合アルヲ
 以テ無餘儀出訴及ヒタル譯ニシテ該立入ノ野山全面ノ内被告村(古川)
 ニテ伐木セサル箇所ハ則字水神山神宮林宮添林御鋏平ノ五筆現地
 七箇所ニ限リタル義ニシテ其他ハ現ニ伐木仕來且約定書中ニモ伐
 木不致トノ明文無シ然ルニ原告村(寺内)ニ於テハ意外ノ説ヲ主張スレ
 厄立入タル野山一圓被告村(古川)ニテ伐木セサルノ契約ナラハ何ソ其
 字ト箇所トヲ限リ區畫ヲ定メ伐木ヲ禁ズルノ契約ヲ結フヘキノ理
 アラン如此其區域ヲ定メ伐木ヲ禁ズル上ニ其他ニ於テ伐木スル
 モ妨ナキハ論ヲ俟タズ尤斷ヲ伐採トノ契約ハ無之且右野山ハ原告

村(寺内)所有地ニ相違無之因テ被告村(古川)ニ於テ薪ヲ勝手ニ伐採ルヘ
 キ權利ハ非レ厄現ニ是迄立入タル場所ニ於テハ前陳ノ如ク薪ヲモ
 伐採來タリ而シテ其箇所ト字トヲ區畫シ伐木ヲ禁シタルヲ以テ他
 ノ場所ヘモ其約ヲ及ホシ伐木ヲ禁ズルノ理曾テアルナシ則岐阜縣
 廳ノ裁判ハ條理適當ノ裁判タルニ付原告村(寺内)ニ於テ右様不條理ノ
 義ヲ主張セス右裁判ヲ遵奉致ス様裁判受度旨申立タリ
 依テ判決スル左ノ如シ
 被告方村(古川)ニ於テハ原告方村(寺内)野山ヘ立入來タル次第ハ第一號ヨ
 リ第五號契約証書ニテ明瞭ニシテ即野山全面ノ内字宮林山神水神
 宮添林御鋏平ノ五筆ヲ除ノ外ハ往古ヨリ立入其上地ニ生植スル草
 木共ニ刈採シ來リ何等故障モ無之折柄明治九年三月ニ至リ原告方
 村(寺内)ヨリ種々苦情申張立入申斷ルトノ掛合ヲ受タルヨリ岐阜縣廳

へ出訴ニ及ヒタリ其原告(寺内)ニテ苦情ヲ唱フル要領ハ被告方(古川)ニテハ元來右野山へ立入り芝草又ハ落葉ヲ採ルニ止リテ樹木ヲ伐採スヘキ契約ハ不致故芝草ノ外ハ一切樹木ヲ伐採スヘキ等無之トス旨趣ナリ勿論被告方(古川)ニテ樹木ヲ伐採スヘキト判然契約ナルニ非レハ必ス之ヲ伐採スルノ權利ヲ有スル義ヲハ無之ト雖現實往古ヨリ立入りノ契約ヲナシアル場所ニ於テハ草木共ニ勝手ニ採來リタレハ今更落葉芝草ノ外ハ一切採リ得サル理由無之旨申立レ厄地所々有者タル原告方(寺内)ニテ從來被告方(古川)ニ右野山へ立入り許シ芝草ヲ刈ラセタルノミニシテ樹木ヲ伐採セシムルノ契約ハ爲サストク陳述ト符合スルノミナラス被告(古川)ニ於テモ自ラ必スシモ樹木ヲ伐採スヘキ權利ヲ有スルニ非レ厄只從來ノ因襲ニ依テ伐木ヲ爲シ得ヘシト云迄ニシテ外ニ伐木ノ契約ヲ爲シアルニ

非レハ被告方(古川)ニ於テ地所々有者タル原告(寺内)ノ許諾ナク樹木ヲ伐採セシトノ申分ハ不相立事 明治十年六月十三日

大審院ニ於テ 原告 岐阜縣美濃國大野郡古川村惣代副戸長大野半助外一人 被告 古川村 人上告ノ要領

第一號証書入會野山釜面ノ内第三號証書ニ於テ區畫ヲ定以伐木ヲ禁シタリ如此伐木ヲ禁シタル箇所アルヲ以テ觀レハ其他ノ箇所ハ伐木刈草等モ被告ト同等ノ權利ヲ有スル道理ヲ推シテ明昭ナリ何トナレハ右第一號証書ニ於テ入會野山ニ圓伐木ヲ禁シアルモノトセハ何ソ第三號ノ証書ニ於テ區畫ヲ定以伐木ヲ禁スルヲ契約ヲ結ブヘキ理アラシヤ且該論地ニ偶生木アルモ其大ナルモラニシテ長サ三四尺ニ過キサル段ハ東京上等裁判所ニ於テ被告モ既ニ明言

セリ而シテ此三四尺ニ長シタルモ爭論以來原告ニ於テ伐採ヲ中止
セシヲ以テナリ因是觀之從前ヨリ採薪芻草ノ差別無ク稼キ來リシ
實況ヲ徵スルニ足ル然ルニ東京上等裁判所ニ於テ右等ノ條理ヲ推
究セズ止マ伐木ノ明文無キ點ニノミ拘泥シテ判決セラレシハ不法
ノ裁判ト思考ス是上告シテ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

原告ハ第三號爲取替証書ニ區畫ヲ定メ伐木ヲ禁シタルヲ以テ其他
ノ個所ハ伐木刈草共被告同等ノ權利ヲ有スルハ道理ヲ推テ昭明云
々申立レモ如何セン第一號以下第五號ニ至迄一モ樹木ヲ伐採スル
ノ明文ナク而シテ地所々有者タル被告村ニ於テハ往古ヨリ原告村
ニ木類ヲ伐採ラスル事曾テ無之ト申述ル上ハ到底原告ノ云フ處ハ
臆想附會ノ說ニシテ可憑ノ証ナシ

判決

右ノ次第ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ筋ナキモノ
トス

第六拾壹號

○預ケ品取戻上告ノ判文 明治十年十月三十一日上告
明治十一年五月廿三日申渡

原告

塚縣第二大區一小區正
覺寺村平民道野萬次郎

代人

増田彌一郎

被告

大坂府第五大區一小區
天王寺村平民

柴谷トク

大坂上等裁判所ノ判文

原告訴ル要旨ハ明治五年十一月池田龜七ナルモノヨリ金八拾圓返
濟受クヘキ處ヘ證據物第一號二號ノ通り實綿千貳百斤被告先代木
綿屋利兵衛ヘ預ケタル証書ヲ第三號証書ヲ以テ讓受ク爾來右品取
戻サント同家ニ對シ屢催促ナシタレ
本文証書ノ寫左ノ如シ

第一號

- 一 實綿五百五拾斤
- 二 右同六百五拾斤

未八月十六日

木利 **天利改**

第二號

池田屋龜七様

一 割極上干實綿別紙書面ノ通儘ニ預リ置其元殿入用節ハ何時成
共相渡可申候以上

安政六年未八月十七日

木綿屋利兵衛印

第三號

讓書証文之事

干實綿千貳百斤

但預リ主 木綿屋利兵衛

右之証書我等當名ニ御座候處此度其元殿江借用金引當シテ讓

リ渡シ候處實正也然ル上ハ其元殿江御勝手ニ御取立被成候
我等一言之申分無御座候無後自讓リ渡シ証文仍テ如件

讓リ主

明治五年申十二月十五日

正覺寺村

池田屋龜七印

道野萬次郎殿

等開置シニ付明治九年十二月大阪裁判所へ訴出タル處控訴狀掲載ノ通り裁判セラレタリ然レモ第一號証書(前ニ)ニ實綿五百五拾斤預リ同六百五拾斤同斷未八月十六日トアルハ安政六年八月十六日龜七ヨリ利兵衛方へ荷物送り附ケタルキ取置キシ証書ニテ第二號証書(前ニ)ニ極上千實綿別紙書面ノ通り儘ニ預リ云々安政六年未八月十七日トアルハ荷物送り附ケタル翌日相場下直ニ付賣却スルヲ厭ヒ當分荷物預ケ置ク丁ニ相成因テ前日ノ証書ヲ併セ更ニ右預リ証書ヲ取置キタルモノナリ其第一號証書(前ニ)ニハ天利改ノ印影第二號証書(前ニ)ニハ天下茶屋綿利ノ印影アリテ番通印影ノ異ナルハ從來

賣買取引上ノ習慣トシテ其場合有合セノ店印或ハ商用印ヲ捺用シタルモノニテ又一號証書(前ニ)ニ二號証書(前ニ)トハ割印スヘキヲ二號証書(前ニ)ト利兵衛方ノ帳簿中實綿千貳百斤預リ云々ト記載セル紙面割印シテ足ルモノト自認シ一號証書(前ニ)ニ割印ヲ求メサリシモ該証書ノ外三號証書(前ニ)ニ屬スヘキ証書之レナク被告ニ於テ天利改ノ印ハ貫目改メ又ハ封緘ニ用ヒタルノモノナリト申陳スレモ証據物第四號乃至第八號ノ如クナレハ天利改ノ印ハ封緘或ハ貫目改メニノミ押用セシモノニアラサルヲ知ルヘシ

本文証書ノ寫左ノ如シ

第四號

池田屋龜七様 木利 **天利改**

實綿カケ込ノ代銀ノ處へ只今金子三拾兩申遺リ被下當方モ○

印差詰り居時御無據御斷申上候處抑而申遣被下則御使へ金
廿兩相渡候間左様右御承引被下度候早々

物上

第五號

池龜サマ

池田屋龜七様 木綿利 天利改

御手紙度々被下拜見致候然ハ右之儀者御心配相勿多間敷候尤モ
預り實綿貳口千貳百斤之處ハ年賦銀三匁不抱別紙約定書之通御
戻申候間左様御承引可被下候右申上度迄早々
申二月二十五日
第六號

印一實綿十九本也
右之通儀ニ受取申候以上

モリ 天利改 綿利 茶屋

未八月二十九日
池龜殿

第七號

實綿六本也
右之通儀ニ受取申候以上

モリ 天利改

八月廿一日

池龜殿

第八號

池龜

一 壹貫三百五拾目
申入小作年貢相滞候ニ付

預人柴谷利兵衛
代支配人作兵衛

酉八月廿七日ニ御願ニ相成候ニ付此處へ十月十三日ニ三百五拾目入

又十一月四日ニ五百目入

又ハ廿三日ニ五百目入

壹貫三百五拾目差入

無滞出入相濟申候事

御返狀者廿四日ニ堺御役處へ奉差上候事

右之通ニ御座候

酉十一月廿四日之控也

覺 **天利改**

但シ繼目押印有裏



一金貳兩壹分貳朱

一銀札百八拾五目

但酉年御年貢之内

右之通儲ニ受取申候

酉十一月廿六日

若松新田

池田屋

會處印

又讓リ主龜七ニ於テ數年間出訴セサリシハ利兵衛ヨリノ借用金年

賦返償中ナレハ在再月日ヲ經過セシモノニテ是又人情止ムヲ得サ

ル義ナリ既ニ證據物第五號(前ニ)申二月廿五日附利兵衛ニ主龜七宛

ノ書翰ニ預リ實綿貳百千貳百斤ノ處ハ年賦銀三六不抱別紙約定書

ヲ通御戻シ可申下之ヲリ該書ニ據テモ第一號ニ號(前ニ)ハ連屬

へキ証書ナルヲ論テ俟タス然ルニ初審於テ之ニ連屬スル証書トモ結局ニ至リ原告請求ニ如キ申付難ク裁判セザルニ於テ不服ナリ將テ本訴其物品ヲ請求スル雖モ若シ被告先代利兵衛於テ費用シ現存セザルハ當今ノ相場ニテ其代價又請求スル旨陳述スル被告ハ先代利兵衛農間綿問屋致シ明治三年ニ商業相止メ明治六年九月中死去シテ付本訴綿取引實際ハ辨知セサルト雖モ今原告ニ提供スル第一二號証書(前ニ)ヲ連屬スヘキモノトセハ必ス連屬スヘキ証ナカルヘカラス然ルニ第二號証書(前ニ)ニ割印アルモ第一號証書(前ニ)ニ其半形ノ存セサルノミナラス第一號ノ如キハ年號記載之レナク且日附ケモ齟齬スルニ於テハ實ニ曖昧ト言フヘシ其第一號証書(前ニ)ハ荷物送り來ルト貫目ヲ改メ受取ル迄ノ証

ニテ之ヲ印捺シアル天利改ノ印ハ貫目ヲ改メ或ハ封緘ノミニ用ヒ多ク其印捺シアル天利改ノ印ハ貫目ヲ改メ或ハ封緘ノミニ用告ハ第一號証書(前ニ)ハ被告ノ帳簿トシテ割印シタリト陳述スレモ被告ニ現存シ即チ證據物トシテ提供スル帳簿ニテハ安政六年八月十六日綿五百五拾斤買取即日五兩相渡シ安政六年九月朔日六百五拾斤買取漸次金員拂出シ全ク計算済ニ相成居リ
本文帳簿ノ寫左ノ如シ

未以月十六日

綿五百五拾斤

九月朔日

一六百五拾斤

千貳百斤

貳匁六分七厘

直仕切十二月七日

三貫貳百四匁

八月十六日

內三百六拾八匁

金五兩

九月六日

又壹貫七拾四匁

金拾五兩
七一六

九月十五日

又七百拾六匁

金拾兩

三口貳貫百五拾八匁

又四拾三匁壹分六厘

利足
二箇月

合貳貫貳百壹匁壹分六厘

又四百目

年賦分

又銀壹貫目

未三月元
五月切

此リ七拾目

九月三拾目

壹貫四百七拾目

合

差引四百六拾七匁壹分六厘

不足

未七月

內三百拾六匁五分

錢三拾貫文
拾匁五分五厘

未十二月七日

又百廿八匁壹分

金壹兩三分
七三貳

又銀札八匁

又四百五拾貳匁七分

差引殘拾四匁五分六厘

不足

其所ニ割印モ之レナク尙原告ノ言フ處ノ如ク代價下直ニ付賣却テ
 厭ヒ預ケ置キシモノナレハ爾後高價ニシテ利益ヲ得ヘキ時之レカ
 取戻シヲ求ムルカ賣却スヘキ筈ナリ又年賦金アルヲ以テ督促セサ
 ル云々陳述スト雖モ債主ニ於テ年賦ヲ許諾シタル上ハ年々其義務
 ヲ盡シテ足ルヘシ加之實綿ノ如キハ永ク保蓄スヘキ品ニアラス貫
 目ヲ改メ受取置ク迄ノ証書ヘハ預リ等ノ文字認メサル習慣ナルニ
 第一號証書(前ニ掲ク)ニ預リトアリ其墨色單ニ濃キヲ見レハ原告ノ書入
 レシモノナラン第四號七號書中天利改ノ印ハ各筆勢ノ異ナルヲ以
 テ信シ難ク前文陳述スル如クナレハ第一二號証書ハ取殘シ証書ト
 想像セサルヲ得スシテ素ヨリ連屬セサル証書ナルニヨリ該証書ニ
 對シ原告ノ請求ニ應シ難キ旨答辨セリ
 依テ判決左ノ如シ

原告於テ第一號証書(前ニ掲ク)ハ第二號証書(前ニ掲ク)ニ連屬スト陳述スレ
 其証書面ニ連屬ノ証徴之レナク又第五號ノ書翰ニ預ケ實綿二口千
 貳百斤云々別紙約定書ノ通り戻スヘクトアルヲ連屬ノ証トスレ
 右別紙トハ第二號ノ証書ヲ指シタルカ將々他ノ約定書ヲ指シタル
 モノヤ確認シ難ク特リ第一號証書(前ニ掲ク)ニ於テハ假令預リノ文字ア
 ルモ互ノ口供ニ據レハ荷物送附ノ際一時之レヲ受取置タル証書ナ
 レハ今日ニ効力ヲ有セス第二號証書(前ニ掲ク)ニ於テハ極上干實綿別紙
 書面ノ通り慥ニ預ルトノミニテ其物品ヲ知ルニ由ナキヲ以テ到底
 原告ノ請求相立サルモノトス
 明治十年八月十四日

大審院ニ於テ

原告 堺縣第二大區一小區正覺寺村道野萬次郎代人増田彌

一郎上告ノ要領

安政六年未八月十七日附第二號并申二月廿五日附第五號兩通証書明文ニ記載セル別紙トアルハ則チ第一號証書ヲ指サスノハ外ニ指ス可キ書類モ之レ無キ上ハ第一號ニ連屬セシ証書タルハ勿論ナルニ大坂上等裁判所ニ於テ第二號証書ハ第一號証書ニ連屬ノ証徴ナク又第五號書中ニ別紙約定ノ通云々トアル別紙トハ第二號証ヲ指シタルカ將々他ノ約定書ヲ指シタルカ確認シ難ク云々且第一號証書ニ於テ假令預リハ文字アルモ互ノ口供ニ據レハ荷物送附ノ際一時之ヲ受取置タル証書ナレハ今日ニ効力ヲ有セズトアルモ其証書ニ於テハ假令確乎タル預リ書ニ非モ其物品ヲ預リタル受托者ニ於テハ之ヲ附托者ニ返戻セサルヲ得サルモノトス然ルチ其結局ニ至リ第二號証書ニ於テハ極上干實綿別紙書面ノ通り儘ニ預ルトノミニテ其物品ヲ知ルニ由ナキ云々ト判決セラレタルハ實際ニ就キ

審理ヲ盡サ、ル不條理ノ裁判ト思考ス是レ上告シテ破毀ヲ乞フ所以ナリ

辨明

上告人ニ於テ假令確乎タル預リ書ニ非ルモ其物品ヲ預リタル受托者ニ於テハ之ヲ附托者ニ返戻セサルモノト云々申立ルト雖モ其附托者ヨリ現今相續人ニ掛リ物品取戻シヲ請求スルトハ到底其証ニ據ラサルヲ得ス然ルニ第一號第二號第五號ニ連屬ノ証書ナリト云フモ被告力是ヲ信用セサル上ハ上告人カ提供スル証據書類ニ由テ連續シタルヤ如何ヲ尋サルヲ得サルニ今是ヲ認定スヘキ其証左無シ然ルトハ大坂上等裁判所ノ裁判ハ不條理ノ裁判ニ非ズトス

判決

前條ノ如キヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由無キモノ

第六拾貳號

○家藏賣渡偽証取捨吟味願上告ノ判文
明治十一年二月十八日
上告明治十一年五月廿三日
申渡

原告 東京府下第一大區十六

小區南新堀町二丁目九

番地平民小西孝兵衛

右代人 東京府下第一大區十五

小區龜島町二丁目三十

三番地平民

田中多見三

被告 東京府下第一大區五小

區安針町六番地亡長島

嘉右衛門後家

張島

東京上等裁判所 審判

原告 田中多見三控訴ノ要旨

東京裁判所ニ於テ明治十年六月二十三日其方儀已ニ死失スル永島

嘉右衛門ヨリ買取ル土藏其外ハ前キニ山口善實外一人ハ賣渡シテ

ルニ付同人共ニ相渡ス間其旨心得ヘシ但右買取ル節ノ代金ニ請証

人石井直吉外一人ヨリ取上ケ渡スヘキ處資力無之間其旨心得ヘシ

ト裁判申渡シ有之實以テ驚入り右様不正ナル偽証ヲ以テ長島

ヲ始メ石井直吉石井親之山口善實等四名ノ者共ニ欺カレテハ以來

明正ナル証書ニ反古同様ニ相成リ殊ニ親類惣代或ハ地受人等ノ証

判ハ何ノ爲ニ調印致セシ哉裁判ノ末ニ資力無之段心得シト申
渡シニテハ誠以テ難澁ニ付明治十年七月二十八日止告セシ處明
治十年八月司法省丁第七十四號ヲ以テ刑事ニ附帶シテ民事ノ處分
ニ不服シ者ハ民事ノ手續ニ據ルベキ儀然相心得旨ヲ達シテ依リ
明治十年十一月五日止告狀御下提ラレテ附止告ヲ得テ控訴ス
何卒被告長嶋等ハ此ヲ喚出申レテ不明ノ難ク証細明白ニ相分ル様裁
斷アラシクテ請フ

判文ノ要旨

原告カ山口善寶ノ有スル証書ハ偽造ニ係ルモノナリト訟ル理由ヲ
聽クニ到底石井直吉石井親之飯沼安兵衛ヨリ傳聞スル所ニ根蒂シ
他ニ其偽証ナルヲ証ス可キモノナク唯傳聞スル處ヲ以テ之ヲ推
量スレバ該証書ハ誰ノ手ニ成リシヤハ明知ス可カラスト雖モ必ス

嘉右衛門ノ死後ニ成リシモノナル可シト云ニ過キス然ラハ則微頭

徹尾証據ト看認ム可キモノ無之ニ付原告ノ願意相立ス 明治十年十

大審院ニ於テ 原告代理人 田中多見三上告ノ要旨

東京上等裁判所ニ慥成ル証ヲ以テ控訴シタル無引合人并請証人共

一應ノ調モ無ク原告ノ願意不相立趣裁判申渡サレテハ確証ヲ以

テ取引致セシモ空ニ相成リ以テ今日本商法上ニモ差支難澁仕

リ殊ニ前四名ノ者共ニ欺カレテハ甚以テ殘念ニ付大審院ニ於テ被

告人召出サレ前書ノ廉々明瞭ニ審問アラシク願フ

大審院ニ於テハ上告人カ原ト裁判言ヒ渡シテ受テシ裁判ノ當否ヲ

辨明シ原裁判適當ナル時ハ上告狀ヲ却下シ若シ源裁判カ裁判所管

理ヲ權限ヲ越ヘ又ハ聽斷ヲ定規ニ乖キ或不裁判法律ニ違フ時ハ其
裁判ヲ破毀スルヲ掌ルノ所ニシテ被告者カ其罪犯ニ對セル告訴
ヲ受ル所ニ非ス而シテ本件ハ現証ニ據レハ固ヨリ山口善寶等ニ於
テ該家屋主藏先キ取リシ權利ヲ有スヘキコトハ明瞭ナリトス

判決

被告長島等カ証書ヲ偽造シ以テ小西孝兵衛ヲ欺キタル證據有テ
其犯罪ヲ審斷セラシメテ願フナラハ更ニ東京裁判所檢事ニ告訴ス
ヘクシテ大審院ニ上告スヘキ筋ニ非サルニ付上告狀却下スル者也
第六拾三號

○對談地請戻爭論一件上告ノ判文明治十年八月十一日上告
明治十一年五月廿四日申渡

原告 長野縣信濃國佐久郡下
中込村平民市川タキ代

同村

市川五郎右衛門

有代人 東京第一大區七小區南

横町一番地寄留石川縣

士族

富田 信 英

長野縣信濃國佐久郡下

中込村平民

石山興五兵衛

東京上等裁判所ノ判文

對談地請戻ノ件松本裁判所ノ裁判不服ヲ趣又以テ及控訴次第遂吟
味處

原告石山與五兵衛訴ル要趣ハ控訴狀中ニ事情縷陳セシモ到底無証
ノ爭論ニ歸ス可キ故收差審理ヲ煩サズ唯被告人市川ヲ所持久甲
號返リ証書

本文甲號返リ証書寫左ノ如シ

差出申一札ノ事

字上原田六筆

一下々田壹反貳拾九步

一稗田拾貳步

但大枘壹斗貳升五合
小作粉貳拾五俵

右ノ田地去卯四月貴殿方ヨリ壹箇年季ニ實地高丈ニ仕讓請候所
實正ニ御座候私方ニテ十箇年所持仕候上元金八拾四兩ニ而貴殿
請戻シ所持被成候ハ、御返可申候若私ヨリ請戻以外々ニ差引地
ニ被成候節ハ御返シ申問敷候右ノ通對談仕候上ハ少茂違變申問

敷儀爲念一札仍如件

天保三年辰四月

一札主 磯 五郎 郎印

加判人 又 兵衛 印

八郎右衛門殿

二十箇年ノ後ニ至リ受戻トアレバ天保十三寅年ナリ右天保十三寅
年四月ヨリ昨明治九年七月マテ三十有餘年ノ間一度モ受戻ノ談判
ヲ受タルトナキノミナラス既ニ弘化元年中亡父磯五郎困難ニ迫リ
止ヲ得ヌ被告へ請求ノ談判ニ及ヒタルモ金子調達成リ難ク年期後
ハ申分無之旨申聞ルニ付佐藤彦左衛門へ五箇年季實地ニ差入タル
下ハ村役場ノ帳簿ニ載セテ明カナリ爾來自分所有地ト確認シ地券
ヲモ受タルモ何ノ故障モナカリシナリ畢竟近年田地ノ價格昔年ニ
比較スレバ格外騰貴ニ至リシ邊ヨリ証書行文中十箇年云々トアル

文字ヲ奇貨トシ今般ノ詞訟ニ及ヒタルヲテ地券發行ニ付地所調査ノ爲メ若干ノ費用相懸リタルモ永遠ニ傳フルノ所有權ヲ附與セラル、ノ儀ニ付一家ノ財産ヲ傾ケ其失費ヲ辨シタリ然ルニ今日ニ至リ一片故紙ニ等シキ証文ヲ以テ取戻ヲ請求サル、ハ條理情實共ニ許サ、ル所ナリ然ルニ松本裁判所ニ於テ被告へ請求ス如ク地所可相渡トノ裁判ハ不服ノ旨申立タリ

被告市川タキ答ル趣ハ控訴答辨書中ニ天保十三年以降取戻ノ談判及ヒタル云々ト事情縷陳セシモ右ハ歲月ヲ經過セシノミナラズ別ニ憑証トス可キモノナキ上ハ敢テ其審理ヲ煩サス然リト雖モ天保三辰年四月中契約セシ返リ証書ハ別ニ年限ヲ記載セサレハ何時ニテモ受戻スノ權理アルハ論ヲ俟タズ原告へ屢談判ヲ遂クルト雖モ不當ノ挨拶ニ付不得止明治九年七月十一日長野縣裁判所へ取戻ノ

儀出訴シタルニ審問ノ末明治十年二月二日松本裁判所ニ於テ請求ノ如ク裁判ヲ受タリ然ルニ原告石山興五兵衛ニ於テ不服ヲ唱ヘ控訴スト雖モ天保三辰年四月附返リ証書ノ如ク十箇年所持ノ上元金云々ノ明文ニ據リ被告ノ都合ヲ以テ受戻ヲ請求スルノ權理アリ明治五年地券發行ニ付田地調査ノ事ハ詳知致シタレト天保三年ニ至リ一旦流地ニ相渡シタル以來ハ渾テ原告ノ所有ニ付地券願等ノ順序ヲ爲スハ被告ニ於テ故障ス可キノ條理無之ニ付黙止タレト前隙ノ理由ナルヲ以テ天保三辰年四月附返リ証書明文ニ據リ這回地所受戻シ度旨ヲ申立タリ

仍テ判決スル左ノ如シ

被告市川タキニ於テ該訴ノ質地ハ天保三辰年四月一旦流地ト爲シ其節更ニ無期限ノ契約証書ヲ受取置タル故被告ノ都合次第地所受

戻スノ權利アル旨主張スト雖モ天保三辰年四月附ノ契約書ヲ審理
 スルニ一旦流地ノ後成立シタルモノトハ認定シ難シ右ハ天保二卯
 年四月契約シタル質地ノ満期ニ際シ尙十箇年ノ置据ヲ約シ十箇年
 ノ年限ヲ過クルノ後ハ被告ノ都合次第可受戻トノ主意ニシテ其實
 質地ノ約束ヲ延期シタルマテノ証書ナリ依テ天保三辰年一旦流地
 セントノ申分ハ難相立依然質地ニシテ十箇年ノ後ハ何時ニテモ証
 文面ニ據レハ請戻シテ求ムル權利アルモノナリ然ルニ如何セン明
 治五年地券調査ノ節原告石山與五兵衛ニ於テ地券受願ノ手續ヲナ
 シタルコトハ詳知シナカラ故障ヲ唱フ可キ條理ナキト一言ノ茲ニ及
 ハサリシハ則爾後地所々有ノ權既ニ被告ニ移リタルコトヲ自認シタ
 ルノ顯証ナリ如此被告ニ於テハ自ラ所有ノ權利ナキコトヲ自認シ原
 告ニ於テハ地所々有ノ確証トス可キ地券ヲ受テ得タルノ顯証アル

上ハ今ニ至リテ天保三辰年四月附返リ証書ニ溯リ地所受戻ヲ請求
 スルノ權利無之依之被告申分不相立事 明治十年六
 月十四日

大審院ニ於テ

原告 市川タキ代市川五郎右衛門代人富田信英上告ノ要領

第一條

東京上等裁判所御判文中天保三辰年四月附ノ契約書ヲ審理スルニ
 一旦流地ノ後成立シタルモノトハ認定シ難シ右ハ天保二卯年四月
 契約シタル質地ノ満期ニ際シ尙十箇年ノ置据ヲ約シ十箇年ノ年期
 ナ過クルノ後ハ被告ノ都合次第可受戻トノ主意ニシテ其實質地ノ
 約束ヲ延期シタルマテノ証書ナリ依テ天保三辰年一旦流地セント
 ノ申分ハ難相立云々ト有之右一旦流地ノ後成立シタルモノトハ認
 定シカタシトハ証書明文ニ依ラサルノ判決ナリ該証書明文ニ田地

云々高入仕讓請候處實正ニ御座候私方ニ六十箇年所持仕候上元金
 八拾四圓ニテ貴殿受戻シ所持被成候ハ、御返可申候若私ヨリ請戻
 シ外々ハ差引地ニ被成候節ハ御返シ申間敷候ト有之若質入ニ相違
 無之トナラハ高入ニ仕讓請云々或ハ元金八拾四圓ニテ請戻シ又ハ
 外々ハ差引地ニ被成候節ハ御返シ申間敷候杯トノ文字記載スヘキ
 謂レナシ夫レ如此証書明文ニ讓請ト云元金八拾四圓ニテ請戻シ或
 ハ外々ハ差引地ニ被成候節ハ御返レ申間敷トハ全ク流地トナシ彼
 レハ讓渡セシノ証顯ナリ是ニ由テ之ヲ見レハ役場公簿等他ニ據ル
 ヘキノ証無之ト雖モ一旦流地セシ後更ニ買戻シノ約定セシト顯然
 タリ然ルチ質地証書ノ延期ヲ約シタルマテト判決アリシハ不法ノ
 裁判ト思考ス

第二條

第一條 凡そ地券受願ノ手續ニ於テ地券受願ノ手續ニ

又同御判文中明治五年地券調査ノ節原告ニ於テ地券受願ノ手續ニ
 ナシタルトハ詳知シナカラ故障ヲ唱フ可キ條理ヲトシ言フ茲ニ
 及ハサリシハ則爾後地所々有テ權既ニ被告ニ移リ移シテ自認シ
 タルノ顯証ナリ云々ト有之候得共素ヨリ十箇年ノ後買戻スヘキ約
 定ニシテ原告都合次第何時可買戻ス自由ナルヲ以テ明治五年地
 券調査際敢テ請求セズ明治九年七月ニ至リ都合ニ由リ請取テ被告
 ハ掛合ニ及ビ及ル義ニテ明治五年地券調査際請求セザルヲ以テ買
 戻ノ權理ヲ拋棄スヘキノ理由無之然ルヲ地券調査後所有ノ權被告
 ニ移リタルコトヲ自認シタル云々トノ判決アリテ不法ト思考ス
 第一條 凡そ地券受願ノ手續ニ於テ地券受願ノ手續ニ
 原告ハ掛號返シ証書ニ質地高入仕讓請候云々以下明文ヲ援引シ

公簿等他ニ據ルヘキノ証ナシト雖モ一旦流地セシ後ニ戻ノ約定セシヲ顯然タリト申立レテ該証書中貴殿請戻シ所持被成候ハ、御返可申云々等ノ語ハ全ク質地ニ對スルノ旨旨ニシテ流地ヲ買戻スニ就テ契約セシモノト認定スルヲ得ス依テ東京上等裁判所カ質地ノ約束ヲ延期シタルマテノ証書ナリト判定セシハ相當ナリト雖モ質地ハ年季明二箇月ヲ過テ請戻サ、レハ流地トナルハ從來ノ成例ナルニ十箇年ノ後ハ何時ニテモ証文面ニ據レハ請戻シヲ求ル權理アルモノト判定セシハ成例ニ違タル裁判ナリトス

第二條

原告ハ該地所ハ十箇年ノ後買戻スヘキ約定ニシテ都合次第何時可買戻トモ自由ナルヲ以テ明治五年地券調ノ際請求セサルモ買戻ノ權理ヲ拋棄スヘキ理由無之ト申立レテ元來該地ノ契約ハ十箇年ヲ

期限ト定メタルモノナレハ原告オイテ之ヲ請戻サントスレハ十箇年季ノ後ニ於テ直ニ其掛合ヲナスヘキ筋ナルニ依然其期ヲ失シ之カ請求ヲナサ、ル上ハ前條ニ論辨スル如ク質地ハ年季明二箇月ト云ノ成例ニ背キ設令被告地券ヲ請サルノ前ト雖モ原告オイテ請戻ノ權利ナキモノトス然ルニ東京上等裁判所ニ於テ被告地券ヲ受得タル上ハ今ニ至リテ天保三辰年四月附返リ証書ニ溯リ地所受戻ヲ請求スルノ權利無之トノ裁判ハ適當ナラサル裁判ナリトス

判決

前條ノ次第ナリト雖モ原告オイテ地所受戻シノ權利ナキハ同一ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スルノ限リニ非サルモノトス

第六拾四號

〇仕法金不納上告一件判文明治十年七月四日上告
明治十一年五月廿五日申渡

原告

大阪府下第七大區一小區
區平野鄉市町八十六番

地平民

高見彌兵衛

被告

堺縣下河内國澁川郡第

二大區一小區正覺寺村

百姓總代

田三郎平

同縣下同國同郡同村百

姓總代平民

平野澁川二郡

大阪上等裁判所判文

租税并仕法金不納ノ控訴審理ヲ遂ル處

原告訴ル要旨ハ被告ニ於テ租税并仕法金ヲ不納セシメ付被告ハ係

リ明治九年一月十三日大阪裁判所へ出訴セシ處審問中理解ニ從ヒ

租税ハ皆納セシナレモ仕法金ヲ拂ハサルニ付仍ホ之カ裁判ヲ願フ

タルハ控訴狀ニ掲載セシ裁判書ノ通裁判セラレタルニ付爰ニ不服

ヲ生シタリ則チ該仕法金ト呼フ者ハ文政三年舊領主淀藩ノ負債ヲ

管下ノ石高ニ割賦セラレ其金高ハ分明ナラサレモ各々村方ノ石高

ニ之レチ割賦シテ年々各村ノ庄屋ヨリ之レチ取聚メ大庄屋迄差出

シ來リシモノナリ然ル處安政三年ニ至リ百姓共一同之レカ苦情ヲ

申立タルニ付此旨舊淀藩へ申立タルハ此時第五號証書ヲ下附セラ

レタリ依テ此証書ヲ百姓共一同へ示シタルハ其後苦情ハナカリシ

ナリ右第五號証書ヲ下附セラレタル時澁川若江兩郡十四箇村ノ高

壹万石へ宛銀高千五百八拾六貫六百貳拾四匁七分貳厘割賦セラレタルニ付各村庄屋立會ノ上第六號証書ノ通原告村ハ高貳千五百石八斗六升ニ宛銀三百九拾六貫七百九拾四匁ノ引請トナリ此際萬屋直助外八名ヨリ之レカ銀高ヲ借受テ其債主へ之レヲ辨償シ爾後ハ年々利足金ノミ村總高ニ割賦シ來リシ處明治元年ニ至リ佐々木政行外三名ヨリ金高千九百圓餘借入テ前債主萬屋直助外八名へ之レヲ返濟セリ明治六年右仕法金ハ公債トナルヘキモノト一同心附キシニ付此年第五號証書ニ據テ塚縣へ此旨出願セシ處其以前ハ藩債ナルモ一旦村方へ引請タルニ於テハ最早公債ニハナリ難シトテ採用セラレサリシニ付從前ノ如ク之レカ利息ヲ償却スルノミニテハ到底村方ノ難澀ナリトテ戸長始メ出作總代共ト一同協議ノ上元金モ拂入レントテ明治七年ヨリ同十年迄持高壹石ニ付金貳格五錢ツ

、出金シテ元利ヲ皆濟セント決定セリ爰ニ債主共ニ於テ百姓共ノ連署セシ証書ニテハ爾後貸置ヲ難シト申聞タルニ付戸長并總代宛ニテ第四號証書ヲ百姓共ヨリ受取り而シテ第八號証書寫ノ通明治七年一月二十一日戸長并總代共借主トナリテ金額千八百四拾圓零四拾九錢三厘九毛ノ証書ヲ更ニ佐々木政行等へ差入タリ被告ニ於テ該仕法金ハ當初銀高七拾貫目ニテアリシニ付最早償却濟ニナリシ等又村掛リ諸入費ハ戸長共ヨリ出作ノ者ニ對シテ明治五年塚縣へ出訴セシ際維新以前ニ係ルモノハ取消サレタリト申立レテ決シ此等ノトアルナク被告ニ於テ既ニ明治七年迄該仕法金ヲ差出セシナリ依テ第一號証書中則チ御領主様ヨリ御借財爲濟方御仕法筋被仰出候云々并ニ其外何事ニ不依都テ本村同様無違背相勤可申候云々トノ明文ニ基キ明治八年同九年仕法金滞高本村同様被告ヨリ償

還受度シト請求セリ

被告ニ於テハ租税金ノ儀ハ初納ト納メ皆濟ノ期至ラサレハ之レカ過不足判然ナラサルニ之レモ共ニ訴ラレタレモ審問中之レカ期限至リシニ付之レヲ皆納セシナレモ本訴仕法金ノ儀ハ文政年度銀高七拾貫目舊淀藩ヨリ原告村へ引請タル趣ニテ原告提供第一號議定書中ニ〔御領主様御借財爲濟方云々〕ト記セシナリ然レモ該銀高ハ原告村總高貳千五百石餘ニ割賦シテ毎年壹石ニ宛銀三匁五分ノ割合ヲ以テ十箇年間出銀スレハ元利共皆濟ノ筈ニテ既ニ數十箇年ヲ過キタレハ之レカ掛金ノアルヘキ筈ナシ然ルニ被告ニ於テ安政三年原告村ノ高地ヲ正覺寺屋久兵衛ヨリ讓受ケシ後該仕法金ノ掛金高年々増加セシニ付爰ニ不審ヲ起シ原告村役場へ屢此旨掛合ニ及ヒシ處當時ノ習慣ニテ却テ苦情ヲ受ケタレハ止ムヲ得ス明治四

年迄之レヲ出銀セシナレモ何分不分明ナルニ付出作ノ者共ヨリ長共ノ手元諸帳簿取調度シト掛合ニ及ヒ爰ニ兩三年出銀セサリシ處長共ヨリ膠縣へ出訴セラレ結局該仕法金ハ其時借主ノ私債トナリテ割賦掛銀ノ儀取消サレタリ依テ爾後出金セサリシモ原告於テハ明治七年迄該仕法金ヲ被告ヨリ出金セシト申立タリ右ハ第一號証書ノ切紙ニ於ケル如ク尋常ノ租税ト思惟シテ納タルモノニテ其後之レヲ熟考スレハ租税金トハ格外ノ金高ナルニ付問合セタレハ第二號証書ヲ原告ヨリ差贈リ之レニ仕法金高壹石ニ付金貳拾五錢トノ記載アリシヲ以テ該金ハ高割ニテ出金ス可キモノニアラスト屢掛合シモ理不盡ノミ申張リシニ付引合書ヲ以テ掛合ヨリ折柄明治九年出訴セラレタリ原告ニ於テハ明治七年一月二十二日出作ノ者一同へ協議セシト申立レモ被告ハ則チ原告村ノ出作總代役

ナルニ付協議ヲ遂クシナラハ必ス被告躬ヲ出頭スヘキ筈ナルニ此等ノ報知ナカリシヲ以テ右協議ニ與リシトナシ又原告ニ於テ第一號証書中ニ何事ニ依ラス本村同様無違背相勤メ可申云々ノ明文アレハ該訴金額モ被告ノ負擔スヘキ者ト申立レモ被告ニ於テ其事實ヲ問ハス何事ニテモ出金ナサント契約セシモノニ非ス即チ此明文ハ或ハ樋ノ損シトカ或ハ天災ノ爲メ原告村ニ災害ヲ受ケシトカノ費用ヲ割賦シテ償ハントノ旨意ナリ依テ本訴金額ノ如キハ前書ニ陳述スル通り被告於テ償却スヘキ義務ナキモノナレハ原告ノ請求ニ應ジ難シト辨駁セリ

原被告口供并証據物ニヨリ裁判スル左ノ如シ

第一條

被告ニ於テ本訴仕法金ハ銀高七拾貫目舊淀藩ヨリ文政度原告村へ

引受ケシニ根據スルモ其後數十年間原告村ノ石高ニ割賦シテ償却シ來リシノミナラス原告村ヨリ出作ノ者共ニ係リテ塚縣へ出訴セシ際此等ノ仕法割賦金ハ已ニ取消サレタレハ之レヲ償還スヘキ義務ナシト申立又原告提供ノ第一號証

一札

一此度御村領内田畑佐兵衛ヨリ讓リ受ケ申候御年貢御取箇之儀者五ツ壹步之御定免ニ御座候段承知仕毎年十一月二十日限り無滞皆濟可仕義ハ不及申村方諸入用臨時入用銀尼本村同様高割通リ相掛ケ可申候外ニ高壹石ニ付銀壹匁宛本村へ餘内トシテ出銀可仕候

一御領主様ヨリ御借財爲濟方御主法筋被仰出下方へ引請ニ相成候越能承知罷在候皆濟相成候迄者幾年ニ而モ高割通り急度相掛

ケ可申候其外臨時高掛リ銀被仰出候節ハ同様異議ナク相掛ケ可申候

一我等持地所ニテ臨時之儀出來諸入用相掛リ候ハ地所掛リニ相成候趣キ承知仕候右之外何事ニ不依都而本村同様無違背急度相勤メ可申候若シ亦田畑相讓リ候ハ、前文之趣キ異議無之様引合候上ニテ讓渡可申候爲後日一札仍而如件

一但シ此後田畑何程讓リ受ケ候モ所持之分本文同様ニ付此一札御用ヒ可被成候

一私儀此度同郷正覺寺屋久兵衛方ヨリ畑地讓リ受申候ニ付前箇條之趣キ少シモ違背申問敷候爲後証仍而如件

安政三辰年二月

平野郷灘屋

讓リ受主 彌 兵衛印

同郷田邊屋

証人 安 兵衛

書中ニ何事ニ不依都テ本村同様無違背急度相勤メ可申云々下ノ明文アルモ其事實ヲ問ハス都テ本村同様出金セント契約セシニ非ス即チ此明文ハ種ノ損シ或ハ天災ノ爲メ原告村ニ係ル費用ヲ償ントノ趣旨ナリシニ付該訴仕法金ハ此明文ニ關ハルナシト申立ルト雖モ最初原告村へ引請ケシ銀高ハ七拾貫目ニテアリシトノ証憑モナク亦塚縣へ原告村ヨリ出訴セシ時仕法割賦金ハ取消サレタリトノ証左モナク被告ニ於テ已ニ明治四年迄本村同様之レカ掛金ヲナシ又明治七年ニ至リテモ仍ホ之レカ掛金ヲナセシノミナラス第一號証書中ニ(一)御領主様ヨリ御借財爲濟方被仰出下方へ引請ニ相成候趣能承知罷在候皆濟相成候迄幾年ニテモ高割通り急度掛可申云

々トノ明文アリテ爰ニ若干圓幾年間掛ケントノ明文アルトナク又
〔右之外何事ニ不依都而木村同様無違背急度相勤ス可申云々〕トノ明
文アルニ於テハ之レカ明文ヲ牽強シテ説クモ亦タ右明治七年ノ掛
金ヲ尋常ノ租税ト思惟セシトスルモ右申立ハ孰レモ不條理ノ辨駁
ナリトス

第二條

被告ニ於テハ明治七年一月廿二日ノ協議ニ與カラサリシト申立原
告ニ於テハ出作ノ者一同ニ協議ヲ遂ケシト申立原被之レヲ争フト
雖モ右協議ノ末原告村百姓共ヨリ連署シテ差入レタル第四號証書
ハ

一札

一今度御仕法高掛リ金借入ニ付村高掛リ之契約ニテ借リ入可申

之處右ニ而者金主不承知ニ付其元殿方名前ニ而借リ入被下候様
御願申上候段實正ニ御座候然ル上ハ返濟之節者村惣高割ヲ以御
取立可被下候右ニ付後日決而違義故障申間敷候爲其差入申一札
如件

明治七年第一月廿二日

正覺寺村

柳本市三郎印

以下五十八名略之

戸長御中

惣代御中

債主ニ對スヘキ証書面借主ノ名義ヲ戸長共ニ擔任セシメシモノニ
止リ負債償却ノ法方掛金ノ多寡ニ拘ルナケレハ右申争ハ無益ノ